

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県

自治体名： 群馬県

担当課名： 教育委員会健康体育課・地域創生部スポーツ振興課

電話番号： 027-226-4711（健康体育課） 027-226-2081（スポーツ振興課）

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	6,362.28km ²
人口	1,889,425人
公立中学校数	154校
都道府県立中学校数	1校
公立中学校生徒数	45,634人
都道府県立中学校生徒数	371人
部活動数 (運動部活動のみ)	1,811部活
県立中学校部活動数	12部活
県立中学校における地域クラブ活動数	0クラブ
県の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
県の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における都道府県の現状・課題

本県は、令和3年度から国の事業を活用して、運動部活動の地域連携・地域移行を推進している。令和5年7月には、「学校部活動の地域連携および地域クラブ活動への移行に関する推進計画」を、学校を所管する教育委員会と地域クラブを所管する地域創生部が協働で策定し、関係各所に周知した。また、地域クラブ活動体制整備検討委員会・ワーキンググループ会議を開催し、関係団体の代表者を委員として委嘱し、地域移行について協議している。

本県の少子化の現状は、2030年に向けた中学生の人口減少率は19%で、全国の中でも減少率の高さが全国第3位となっている。県内には比較的人口の多い都市部と人口が減少してきている山間部等、県内35市町村の地域の状況は様々である。

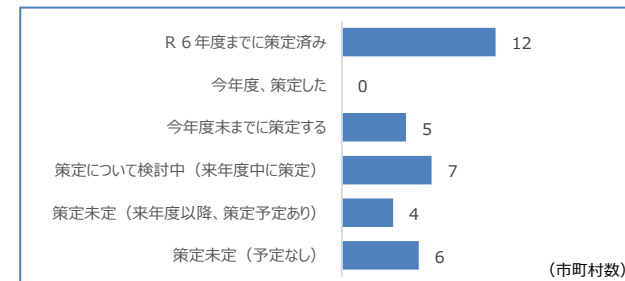
2030年に向けて中学生の人口減少率が高い都道府県

都道府県	中学生人口		変化率
	2021	2030	
1.秋田県	21,924	16,923	-23%
2.奈良県	35,964	28,227	-22%
3.群馬県	50,841	41,197	-19%
4.岐阜県	54,493	44,338	-19%
5.長野県	55,189	45,335	-18%

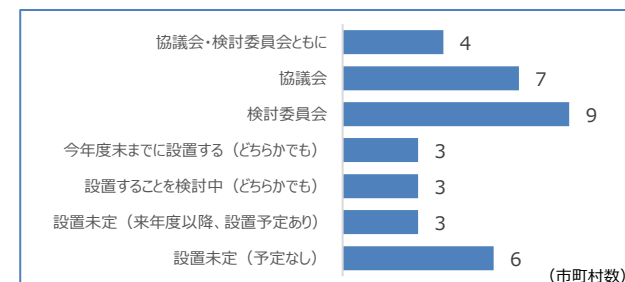
「未来のバカ」ビジョン（経済産業省2022年9月）を元に作成

県内35市町村は、県の推進計画を踏まえ、地域移行の推進に取り組んでいる状況であり、県内市町村の「協議会・検討会議等の設置状況」および「推進計画・ガイドライン等の策定状況等」は下記のグラフのとおりである。

令和7年度は、当事者である生徒、保護者、教職員を含む県民への情報提供・周知不足解消を目指した。また、市町村とのコミュニケーションを円滑にし、市町村が主体的に地域の課題を解決できるよう、伴走支援体制をより充実させてきた。



推進計画等作成状況（出典：県の調査）

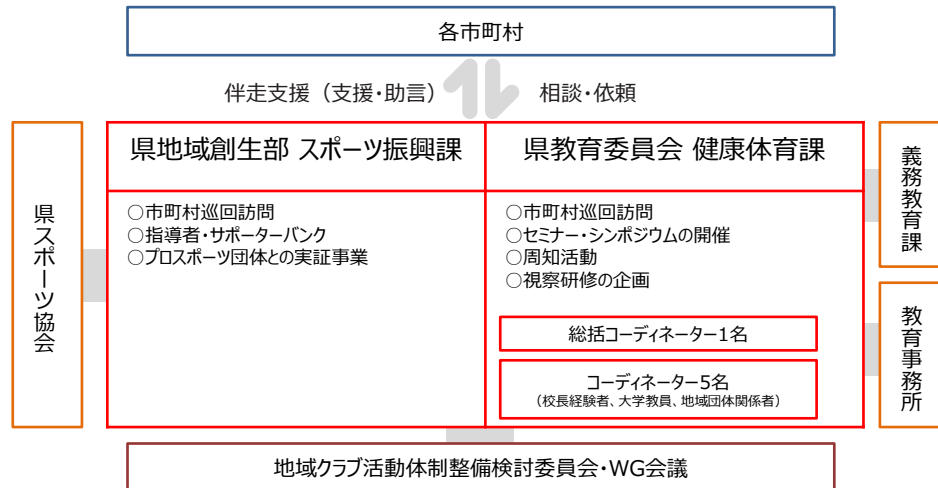


協議会や検討委員会等の設置状況（出典：県の調査）

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●都道府県における推進体制図



※市町村巡回訪問では、健康体育課、スポーツ振興課の担当者に加え、教育事務所の指導主事、県スポーツ協会の担当者、義務教育課の文化担当者が一緒に訪問をしている。

●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（健康体育課）

・部活動改革の主幹、運動部活動の地域連携および地域移行担当、各市町村や関係団体との調整・連携・支援・周知等、県内外の情報収集・分析

◎首長部局（地域創生部スポーツ振興課）

・プロスポーツ団体（MINAKAMI TOWN.EXE）の活用、指導者・サポーターバンクの運営および指導者等の養成研修会開催 各市町村や関係団体との調整・連携・支援・周知等

◎コーディネーター

・市町村への訪問、助言 ・大学との連携 ・市町村や関係団体等との連絡、協議 ・保護者等への広報活動の実施 ・書類作成等

年間の事業スケジュール

- 4月
 - 市町村実証事業開始
 - ホームページ開設
- 5月
 - 地域クラブ活動体制整備検討委員会第1回WG会議
 - 部活動地域展開チェックリストの公開
- 5月～7月
 - 市町村巡回訪問開始
- 6月
 - 第1回地域クラブ活動体制整備検討委員会
 - 先行取組自治体等への視察（南佐久郡）
- 6月～1月
 - コーディネーター派遣制度募集開始 実施
- 7月～
 - 指導者・サポーターバンク登録者募集開始
- 7・8月
 - セミナーの実施（3回）（教育委員会、学校管理職、小中学校教員、保護者向け）
- 8月～1月
 - プロスポーツ団体実証事業開始
- 8月
 - 部活動地域展開推進シンポジウム開催
- 9月
 - 地域クラブ活動体制整備検討委員会第2回WG会議
- 10月
 - 先行取組自治体等への視察（スポーツリンク白川・岐阜県）
- 11月
 - 地域クラブ活動への地域展開シンポジウム
 - 先行取組自治体等への視察（安平町立早来学園・北海道大学・北海道スポーツ協会）
- 12月
 - 地域クラブ活動体制整備検討委員会第3回WG会議
- 1月
 - 先行取組自治体等への視察（福知山ユナイテッド）
- 2月
 - 第2回地域クラブ活動体制整備検討委員会
- 3月
 - 県「実施報告書」作成

■ 実務担当者会議（適宜）

■ 市町村や関係団体への講演（随時）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

1. 実証事業に取り組む市町村が増え事務量が増加するため、事務を担当する職員1名を採用する。
2. 事務局担当者と総括コーディネーター、県コーディネーターによる県内35市町村の巡回訪問を3回行う。
3. 実証事業実施市町村対象の実証事業連絡会議を3回行う。
4. 周知や課題解決のため総括コーディネーター、県コーディネーターの講師派遣制度の新設する。
5. 地域クラブ活動のモデル構築のため、県から県内プロスポーツチームへ、実証事業の実施を依頼する。
 - 想定連携チーム：MINAKAMI TOWN.EXE（3人制プロバスケットボールチーム）
 - 連携市町村：みなかみ町（みなかみ中学校）
 - 想定事業：プロスポーツチームが地域クラブ活動として、みなかみ中学校バスケットボール部（男女）の指導を行う。次年度以降の他地域からの受け入れや受益者負担額の設定を検討する。

取組の成果

1. コーディネーターを配置し、市町村や関係団体と関係を構築し、連絡調整・指導助言の体制が整ってきた。
2. 市町村・教育事務所の現状や課題等を把握し、課題に応じた指導助言をした。また、直接、話をする ことで、信頼関係や相談できる関係が構築され、地域連携についての問い合わせや講演の依頼等が増えた。
3. 市町村の協議会や検討会、スポーツ協会の研修会やPTAの講演 会等で、地域展開について説明する機会が増え県内関係者の理解が少しずつ深まった
4. プロスポーツ団体における地域クラブ活動等について確実に進めている。県内の先行事例となっている。

今後の取組における課題

1. 3年連続して35市町村訪問を実施している中で、未だに部活動改革について主体的に取り組む姿勢が消極的な市町村が見受けられる。また、県内3か所でセミナーを開催したが参加者が少ない状況にある。
2. 県内多様な団体との連携について、大学との連携の基盤は構築できたが効率的効果的な活動がやや停滞した。
3. 部活動改革についての周知について、保護者、教員向けの周知が不足している。
4. 実証事業実施市町村について、今後の地域クラブ化に向けて実施主体の整備に留まっている市町村と種目によって実施主体の整備も停滞している市町村がある。
5. 事務を担当する職員の雇用ができなかった。

課題への対応方針

1. 国の新ガイドラインに都道府県、市町村の役割が明文化されたので市町村の役割について周知させ、各市町村の主体的な取り組みになるように伴走支援を継続する。
2. 大学等との連携は構築できたので、効率的効果的に運用が図れるようにICT等の活用も考慮して検討する。
3. 県から市町村、市町村から各学校等への周知方法について、PTA連合会等の組織と連携することも検討する。
4. 運営団体の法人化に向けて動いている市町村と実施主体の整備等で停滞している市町村と様々な取り組み状況にあるので市町村の状況を鑑みて伴走支援を進める。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

関係団体・市区町村等との連絡調整等に関する取組

- 全35市町村巡回訪問および市町村・関係団体への助言・支援した。
(訪問者：教育委員会、地域創生部、県スポーツ協会の担当者)
- 県中体連および全14地区中体連会長訪問、情報共有した。
- 県総合教育会議、県内町村教育長会議等各種会議、県PTA大会等にて講演した。
- 行政や学校関係者、保護者や県民を対象とした、部活動改革セミナーを3回実施した。

令和7年度 群馬県部活動改革セミナー
地域スポーツクラブ活動の
国や県の動向から、
体制整備を進めるポイントを探る

参加対象者
【行 政】
市町村教育委員会関係者
市町村スポーツ・文化関係者
【公立中学校】
中学校・義務教育学校(前期)・中等教育学校(前期)の管理職
部活動の地域移行担当者
PTA・保護者・保護者
【その他】
地域移行に興味のある方

講演講師
小出 利一氏
スポーツ庁地域部活動アドバイザー
NPO法人新スポーツクラブ理事長
群馬県部活動コーディネーター

参加無料

プログラム 14:00～16:00 (受付13:30～)

第1部：講演
国の方向性について
・小出 利一氏

第2部：説明
県の方向性について
(県内外の取組)
・小林 史哉 群馬県教育委員会地域政策課 課長
・小山 雅弘 群馬県教育委員会地域政策課 課長補佐

第3部：情報交換
部活動の地域移行
(地域展開)へ
質疑応答

会場・申込
どの会場でも基本的な内容は同じです

令和7年7月12日(土)
太田市学習文化センター視聴覚ホール
申込締切 令和7年7月6日(日)

中之条町ツインプラザ 大会議室
申込締切 令和7年7月26日(土)

安中市文化センター 大会議室
申込締切 令和7年8月9日(土)

申込締切 令和7年8月3日(日)

【主催】群馬県教育委員会 群馬県地域創生部
【お問い合わせ】 ☎ 027-226-4711 (群馬県教育委員会健康体育課)

総括コーディネーターやコーディネーター、運営団体のマネジメント人材の発掘・育成、資質向上方策に関する取組

- 総括コーディネーターを講師として「リスクマネジメント」に関する研修会を開催した。
- 「任意団体と法人団体の違い」の研修会を開催し、任意団体では運営団体の責任を負うことはできないことの理解を深めた。

実証事業実施市町村対象の連絡会議の実施

- 令和6年度は、連絡会議としての位置づけであったが、令和7年度は、群馬県地域クラブ活動体制整備検討委員会内の実証事業ワーキンググループ会議として、3回実施した。
- 1回目は、実証事業の概要について、2回目は中間検査について、3回目は完了検査についての情報提供を行った。
- 令和8年度以降の群馬県の方針尾性について議論をしたり、それぞれの市町村の取組についての情報交換を行ったりした。

コーディネーター派遣制度の新設

- 各市町村の要望に応じて、会議や講演等にコーディネーターが出席していたが、令和6年度までは、電話のみの対応であった。令和7年度は、「ぐんまコーディネーター派遣制度」を新設し、チラシを配布するとともに、電話だけでなく、申込フォームからも申し込めるようにした。
- 会議や講演会、相談等様々な依頼に対して対応することができた。
- コーディネーターだけでなく、指導主事への依頼も多かった。

地域クラブ活動への
地域展開を進めるために
ぐんま
コーディネーター
派遣制度

経験豊かな7名のコーディネーター

- 小出 利一 (総括コーディネーター)
- 田嶋 康彦 (県コーディネーター)
- 佐藤 敬雄 (県コーディネーター)
- 小野 謙子 (県コーディネーター)
- 平林 知巳 (県コーディネーター)
- 佐々木 美沙都 (県コーディネーター)
- 田嶋 和泉 (県コーディネーター)

対象
教育行政関係者、学校関係者
PTA関係者、スポーツ・文化行政関係者
スポーツ・文化等の団体、等主催の会議など

派遣期間
令和7年6月～令和8年1月末
(期間内であれば何度でも可能です)

POINT 1 / 地域展開・地域連携を知る
地域クラブ活動への移行について、県や市の方針を改めて、丁寧に説明します。

POINT 2 / 少人数で
数人の依頼から、大人数の講演会まで、要望に応じて対応します。

POINT 3 / スタジウム調整可能
希望する日に調整できるよう調整します。費やから調整費まで、前回の要望に応じて対応します。

※費用についてはお問い合わせください。
※コーディネーターの日給が定額ではありません。指導主事又は教育委員会の指導主事の派遣になることもあります。
※平日の夕方の派遣、土日の派遣、指導主事の派遣等、ご要望に応じて可能な限り対応いたしますので、ご相談ください。

群馬県教育委員会
健康体育課 ☎ 027-898-3857 (スポーツ担当)
義務教育課 ☎ 027-226-4612 (文化担当)

申込みはこちら

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



スポーツ庁

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- ・ぐんま部活動・地域クラブ活動 指導者・サポーターバンクの運営を行った。
- ・群馬県が登録のための研修会を実施し、バンクに登録された指導者やサポーターの名簿を、市町村等に提供した。
- ・登録者を増加させるために対面研修を2回(9月・10月)実施。以降はオンライン研修を実施した。

取組の成果

- ・指導者研修のうち対面研修について、活動希望の少ない市町村エリアで実施したところ指導希望者のいなかった自治体で指導者を確保できた。
- ・オンライン研修を導入することで、対面研修に参加できなかった登録希望者が自身の都合の良い時間で研修を受講することができ、コンスタントにバンク登録者を増やせた。
- ・バンク登録者のうち13件マッチングできた。

令和6年度	令和7年度				合計
令和7年 2月	令和7 年10月 (対面 2か所)	令和8年 1月 (オンライ ン)	令和8年 2月 (オンライ ン)	令和8年 3月 (オンライ ン)	
118名	9名	8名	4名	9名	148名

今後の取組における課題

- ① 取組を実施する中で、登録されている指導者について、地域や種目の偏在が大きく、自治体が希望する種目の指導者がいない、または人数が不足している等の声があった。
- ② 指導バンクに登録されている指導者の資質を心配する市町村が活用に慎重となり、声をかけづらい実態があった。
- ③ 登録者数に対し、マッチング件数が限定的であり、人材バンクの活用が十分に進んでいない状況がみられた。
- ④ 令和8年度からの「地域クラブ活動指導者」の認定制度について、市町村担当者から運用面等について不安の声があった。

課題への対応方針

- ① 大学や関係団体等と連携し、新たな人材層の掘り起こしを推進するとともに、オンライン上で応募から研修・登録までをワンストップで実施できる仕組みの構築を検討することで、登録者数のさらなる増加及び地域・種目の偏在解消を図る。
- ② 県で行う研修メニューの充実と、登録者向けに対面研修を実施することで、登録者の資質向上を図り、安心・安全を担保する。
- ③ チラシ作成や広報媒体への掲載等、人材バンクの周知を強化することで活用促進を図る。
- ④ 国が示す「認定地域クラブ活動指導者」に求められる資質や能力に係る研修メニューを県が実施することで、市町村における円滑な制度運用と認定の推進を支援する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

人材の発掘・マッチング・配置に関する取組

取組事項

- 令和6年12月にぐんま部活動・地域クラブ活動 指導者・サポーターバンクを設置
- 登録希望者に対して、登録要件となる研修会を開催
- 登録者の情報を市町村に提供

登録人数

148名

登録種目

軟式野球や陸上競技、ソフトテニス、バレーボール、柔道、バスケットボール、ソフトボール等

登録者 資格有無

- 公認スポーツ指導者資格や日本バスケットボール協会、日本サッカー協会等による公認指導者資格等
- 資格がない者もサポーターとして登録

マッチング等実績（令和7年度）

マッチング

13件

〔6市町村
9種目〕

部活・クラブへ紹介

33件

〔6市町村
14種目〕

研修、資格取得促進に関する取組

- 登録希望者向け研修会を対面研修を2回（9月・10月）実施。以降はオンライン研修を実施した。

【研修会内容】

- 事業説明
- 適正な部活動の運営に関する方針について
- スポーツ現場におけるハラスメント防止動画の視聴
- ネットリテラシーに関すること
- スポーツ指導者に共通して求められる資質能力の向上に資する内容



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- ・ 県スポーツ協会の総合型地域スポーツクラブ担当者と一緒に、市町村巡回訪問を行った。
- ・ 県スポーツ協会主催の、少年団事務担当者会議や総合型地域スポーツクラブ連絡協議会等の会議に出席し、国や県の動向や現状等を説明した。
- ・ 県内外の各自治体の担当者（コーディネーター含む）が、円滑に情報交換できる環境を構築するために、全国規模のシンポジウムを開催した。

今後の取組における課題

- ・ 県内外の関係者のつながりができた一方で、県内の担当者との繋がりが十分とは言えない状況である。

課題への対応方針

- ・ 今後も継続して、県スポーツ協会との連携を強化していきたい。
- ・ 県内の担当者が一人で抱え込まずに取組めるよう、連絡会や情報交換会等を実施していきたい。

取組の成果

- ・ 市町村や地域の方から総合型地域スポーツクラブの問い合わせがあった場合に、速やかに情報共有を行うことができた。
- ・ シンポジウムでは、「全国各地において、同じ悩みを抱えている自治体の方と知り合え、とても有意義な会でした」や「情報共有はもちろんのこと、全国に熱い思いを持った同志がいることを確認し、モチベーションを高め、人脈を広げる絶好の機会」といった意見が寄せられた。

「運動部活動地域展開推進シンポジウム」事後アンケート（一部）

- ・ 指導者、財源の確保に頭を悩ませながら日々取り組んでいますが、室伏長官の言葉から、完璧じゃなくても10年後、20年後に向けてより良い地域クラブ活動を作っていきたいと思います。
- ・ 子どもたちの為に何ができるか。子どもの声、保護者の声をしっかりと聞き、本町ならではの地域展開に取り組んでいきたい。
- ・ 今後の地域展開活動のヒント、参考になりました。子供たち、地域、保護者に視点を置き、地域の強みを活かした地域展開活動に取り組んでいきたいと思います。本県と先進県の取組や現状を比較する機会となり、これからの地域展開の取組に向けて大変参考になりました。
- ・ 部活動だけの「移行」を考えている人がまだまだ多く、これを機に地域スポーツをどう「展開」していくかの議論に進める人が圧倒的に少ないです。今回の会で、参加した人自らが、その一石を投じる人であってほしいと願います。
- ・ 他府県の現状や、地域展開に対する考え方、推進に向かう意識など様々な情報を得ることができ、大変有意義な二日間でした。
- ・ 普段つながれない人とお話できて大変参考になりました。こういったネットワークの重要性を感じました。本県においても推進できるよう取組んでまいりたいと思います。
- ・ 全国各地において、同じ悩みを抱えている自治体の方と知り合え、とても有意義な会でした。
- ・ 参加をして多くのことを学べたことと同時に、全国で苦労されながらも部活動地域展開を推進している方々となつがれたことが、私にとってとてもありがたい時間となりました。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

体育・スポーツ協会、競技団体、総合型地域スポーツクラブ、大学、企業等との連携に関する取組

県内外の担当者・関係者の情報共有および繋がりをつくるためのシンポジウムの開催

令和7年度 運動部活動地域展開推進シンポジウム

開催要項

ー令和7年度 スポーツ庁委託事業 地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業ー

1. 目的

令和5年度から始まった部活動改革推進期間も本年度最終年度を迎え、令和7年5月16日には地域スポーツ・文化芸術創造と部活動改革に関する実行会議において最終とりまとめが決定した。一方で、今後の地域スポーツクラブ活動の在り方や体制整備、地域移行（地域展開）を進める上で、県内外で実際に取り組まれている関係者の皆様と、情報共有の場を設け、全国的な繋がりを持つことが重要と考え、シンポジウムを開催する。

2. テーマ 「地域展開における地方自治体の役割を考える ～都道府県を越えた仲間をつくろう～」

3. 主催 群馬県教育委員会 群馬県地域創生部

4. 後援 全国部活動地域展開を推進する会

5. 日時 【1日目】令和7年8月1日(金) 13:00～16:30（受付 12:30～）

【2日目】令和7年8月2日(土) 9:30～12:00（受付 9:00～）

地域展開における
地方自治体の役割を考える
～都道府県を越えた仲間をつくろう～

**運動部活動
地域展開推進
シンポジウム**

令和7年度 スポーツ庁委託事業
地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

参加費
無料

開催場所
Gメッセ群馬 中会議室301
〒370-0044 群馬県高崎市管理町1-2-24

日時
8/1(金)・2(土)
13:00・16:30 9:30・12:00

定員
先着150名 締切：7月15日
(参加者多数の場合は 申込を締め切る場合があります)

参加対象者
①国・都道府県（政令都市）の
地域移行担当者、コーディネーター等
②全国の市区町村の地域移行担当者、
コーディネーター等
③地域移行関係者
(学校、運営団体、実施主体等の関係者)

日程(予定)

8月1日(金)
12:30 受付開始
13:20 スポーツ庁基調講演
日本スポーツ協会情報提供
ハネルディスカッション
14:40 参加者と意見交換
16:00 参加者と意見交換
16:30 解散

8月2日(土)
9:00 受付開始
9:40 ブース別意見交換
(3ブース予定)
11:20 情報交換会
11:50 諸連絡
12:00 解散

○会場は、J.R.高崎駅東口から徒歩約15分です
○宿泊場所の情報はお知らせしておりません

※「地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業」を
受託している自治体及び団体等は、本シンポジウムに参加
する際の旅費等、実証事業の経費として計上することがで
きます(スポーツ庁及び事務局へ確認済み)。

【主催】群馬県教育委員会 群馬県地域創生部
お問合せ ☎ 027-898-3857
(群馬県教育委員会健康体育課)

申込はこちら

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 35市町村への巡回訪問の実施
- 実証事業を実施した市町村による情報交換を実施
- 総括コーディネーターによるコーディネーター通信の発行
 - ・ スポーツ庁や日本スポーツ協会の情報、県外視察・研修会の情報等を県内市町村や関係団体へ発信
- 県外視察・研修会への参加および報告、市町村等への情報提供
 - ・ 県（健康体育課・教育事務所）担当者、総括・県コーディネーター、市町村担当で、県外の視察・研修会へ参加
 - ・ 市町村への助言の際や関係団体等への講演の際、取組事例を説明
 - ・ 実績報告書への記載

取組の成果

- 市町村巡回訪問を通して、市町村単費のみで実施している市町村があったり、それぞれの市町村の今後のビジョンについて説明を受ける等、多くの情報を得ることができた。
- 実証事業を実施している市町村同士の情報交換では、体制整備の作り方や雲煙団体とのかかわり方等、具体的な取組から対応の仕方まで細かく話すことができた。
- 県外視察や研修会を通して、県担当者及びコーディネーターの地域移行に関する理解が深まり、それぞれの立場での指導助言に生かすことができた。
- 県内市町村や関係団体の課題に沿った、先進地の取組を紹介することで、課題解決及び地域移行推進に役立てた。

今後の取組における課題

- 市町村訪問では、ヒアリングや説明に時間が多くかかってしまった。
- 広域連携のための情報交換の場が、実証事業を行っている自治体のみと限定的にしか開催できなかった。
- 県外視察では、これまでの県内の状況を踏まえ、県主導で市町村の課題にあった視察先を選択してきたが、市町村の要望に十分応えられていない可能性がある。

課題への対応方針

- チェックリストを活用し、各市町村の課題を明確化した状態で、市町村巡回訪問を行い、より具体的な助言・支援ができるようにする（オーダーメイド化）。また、訪問だけでなく、電話やオンラインを活用し、常に相談できる体制を構築していく。
- 全市町村の担当者を集めた会議を実施するとともに、5つの教育事務所ごとの情報交換会から始める。
- 広域連携については、各地域に任せるだけでは具体的な改革の動きに発展していないことから、県の役割分野を明確にして市町村へ支援する方法を検討し実施する方針である。
- 市町村へのヒアリングも含め視察先を決定していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

市区町村等を越えた取組

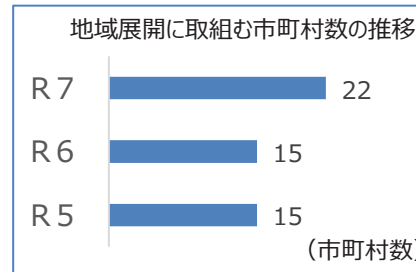
- 群馬県地域クラブ活動体制整備検討委員会内の実証事業ワーキンググループ内で、市町村の取組について情報交換を実施した。
- コーディネーター通信の発行



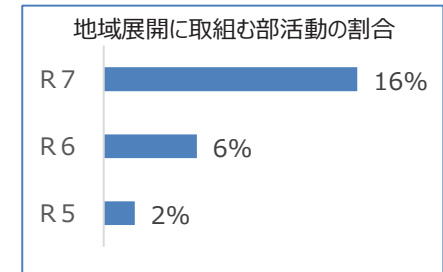
第26号 令和8年2月24日発行

運動部活動の地域スポーツクラブ活動への移行に取り組む市区町村の拡大を図る取組

- 35市町村巡回訪問を実施し、取り組む市町村の拡大を図る



※1つの学校、1つの部活動でも取組んでいる場合、実施としている



※1つの学校で、1年間で1回でも取組んでいる場合、実施としている

- 県外視察・研修会への参加および報告、市町村等への情報提供

6月3日	長野県南佐久郡	広域連携について
8月25-26日	産官学連携フォーラム（東京都）	
10月6-7日	岐阜県 （スポーツリンク白川・岐阜県庁）	運営団体の法人化に向けて
11月10-12日	北海道（安平町立早来学園・北海道大学・北海道スポーツ協会）	運営団体・実施主体について
1月29日	京都府（福知山ユナイテッド）	まちづくりについて

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

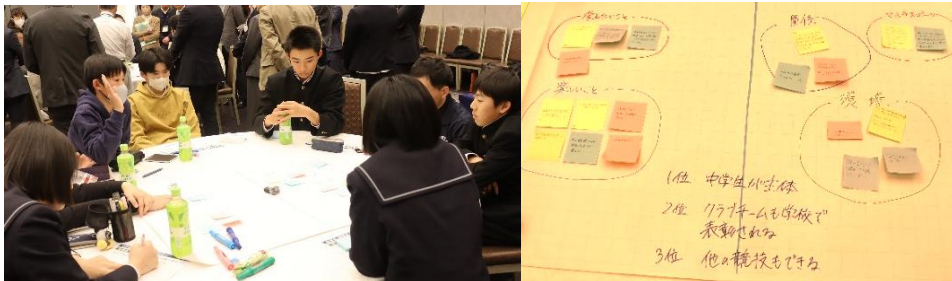
- 関係団体担当者との情報交換会やワークショップ、シンポジウム、セミナー等を6回程度行う。
- ・ 現状や課題を把握するとともに、参加者のニーズに合った会を設定する
- ・ 地域移行関係者の理解を深めるため、スポーツ行政、教育委員会、学校関係者（管理職・教員）、生徒、保護者、地域住民、競技連盟、地域スポーツ関係者等を対象として実施する。
- 部活動改革の主役である小学生や中学生の声を直接聞く機会を創出する。

生徒のニーズや意見等を反映させる取組

「生徒と保護者の聴きたい」としたワークショップを開催。

中学生が望む「未来の地域クラブ活動」

- ① 中学生が主体的に行うことができる活動
- ② クラブで活動していても学校で認めてもらって表彰される活動
- ③ 複数種目ができる活動



取組の成果

- 実証事業担当者、関係団体関係者とWG会議によって情報交換を行った。
- 地域住民を対象としたセミナーを県内3市を会場として実施した。
- 全国規模のシンポジウムを3回開催して、担当者や関係者でのつながりをつくるとともに情報交換と情報共有を行った。
- 中学生の声を聴く機会として、「生徒と保護者の聴きたい」としたワークショップを開催した。
- 「部活動地域展開チェックリスト」を作成した。

今後の取組における課題

- セミナー、シンポジウムへの県内参加者が想定より少ない状況であった。
- 部活動地域展開について、自治体担当者及び地域住民の関心度がやや低い状況にあることは課題点である。

課題への対応方針

- 部活動地域展開は、地域が主体的に地域で青少年を育む環境整備が必要であることを認知していただくため、地域住民を対象とした情報提供が今後必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

「部活動地域展開チェックリスト」の作成

- 「何から取組めばよいのかわからない」、「次に何をすべきか」といった市町村担当者の声を受け、チェックリストを作成した。

ぐんま 部活動地域展開 チェックリスト

市町村向け スポーツ版

「何から始めればいいのか」「どこまで進んでいるのか」「今後、取り組むことは何か」進捗状況をチェック！

○現状把握や課題確認を目的としたチェックリストです
○「全ての項目にチェックが入れなければならない」「前のステージが終わらないと次に進めない」というものではありません
○各自治体の実情に応じて、必要な箇所から取り組んでください
○不明な点等は、下記担当課までご相談ください
教育委員会健康体育課
地域創生部スポーツ振興課

【各ステージ】

- ホップ編 ステージ0：学校部活動の現状と課題
- ステップ編 ステージ1：協議会の設置と推進計画の策定
- ジャンプ編 ステージ2：地域展開に向けて
- ジャンプ編 ステージ3：持続可能な体制の構築
- ジャンプ編 ステージ4：平日も含めた地域展開へ

群馬県教育委員会
群馬県地域創生部
令和7年5月

市町村向け スポーツ版 No.1 ホップ編 部活動地域展開 チェックリスト

ステージ0：学校部活動の現状と課題

0-1 学校部活動の現状把握

- 生徒数の推移（5年前から10年後くらいまで）
- 部活動設置数（一覧表にすると、合同部活動や拠点部活動などの可能性が見つけやすくなります）
- 合同部活動数・拠点部活動数
- 入部率

0-2 学校部活動の課題把握

- 生徒の希望する部活動の把握
- 指導者（顧問・部活動指導員・外部指導者）の確保
- 適正な活動時間と場の確保

ステージ1：協議会の設置と推進計画の策定

1-1 協議会の設置と推進計画の策定

- 実務担当課の決定
- 関係団体等との連携体制の構築（実務者会議の設置）
- 協議会の設置（委員の例：学識経験者、保護者代表、スポーツ関係団体、文化関係団体、校長など）
- 実態調査・アンケート調査（生徒・保護者・教員）の実施と分析
- 推進計画・推進目標の策定
- 生徒・保護者・地域住民への情報提供方法の確立

1-2 学校部活動の改善

- 部・部員数ガイドラインの遵守
- 地域の実情に応じたガイドラインの策定
- ゆる部活・シーズン制・マルチスポーツの導入検討
- 生徒の主体的活動の推進
- 合同部活動の実施
- 拠点部活動の実施
- 顧問・部活動指導員・外部指導者の確保
- 適正な活動時間の設定
- 活動場所の確保
- 移動手段の確保

市町村向け スポーツ版 No.2 ステップ編 部活動地域展開 チェックリスト

ステージ2：地域展開に向けて

2-1 休日の地域クラブ活動への移行

- 地域コーディネーターの任用
- 各種団体の実態調査（スポーツ少年団・スポーツクラブなど）
- 地域展開後の運営組織の検討（市町村直轄・公的機関・民間組織）
- スポーツ協会等との連携
- 受け皿の決定（行政機関・スポーツ協会・競技団体・スポーツ少年団・保護者会・総合型スポーツクラブ・民間企業等）
- できる部活からの実証研究（成果と課題を整理し、よりよい運営方法を検討する）
- 新規地域クラブの設立支援（アシスタントクラブマネージャー養成講習会紹介等）
- リスクマネジメント（傷害保険・賠償責任保険）対応
- 公認（公的支援）クラブの要件（公益性・法人格等）
- 日本スポーツ協会作成「総合型クラブ開設ガイド」を活用

2-2 財源の確保

- 持続可能な予算計画策定
- 必要予算の確保
- 国・県補助金・各種助成金の活用
- 適切な会費の検討
- 受益者負担への理解促進
- 経済的な困難家庭への支援策
- 企業協賛金、ふるさと納税等の検討

2-3 指導者の確保と質の向上

- 指導者バンクの設立または県指導者バンク等の活用
- 指導者バンクの取得
- 指導者バンクの活用
- サポートスタッフの確保（保護者等地域人材の活用）
- 教職員の兼職兼業の可及や条件等
- 指導者研修の実施と認定制度導入

2-4 効果的な広報

- 市町村ホームページ等の活用
- チラシの配布・回覧等の活用
- 教職員や保護者、生徒向け説明会の実施
- シンポジウム・セミナー等の開催
- テレビ・ラジオ・新聞等、地域メディアとの連携
- 日本スポーツ協会作成「総合型クラブ開設ガイド」を活用

2-5 学校施設 管理体制の整備

- 学校施設、公共施設活用ルールの設定
- 放課後活動、社会体育活動の時間調整
- ICTの活用（スマートロック、防犯カメラ）
- 利用費用ルールの設定
- 指定管理者制度、業務管理委託制度の活用

市町村向け スポーツ版 No.3 ジャンプ編 部活動地域展開 チェックリスト

ステージ3：持続可能な体制の構築

- 地域クラブとしての危機管理マニュアルの作成
- 生徒のやりたいスポーツ運営体制への移行
- 引退のない部活動の実施
- ジュニアからシニアまでの多世代での取り組みの試行
- 大学・高校・企業・プロスポーツチーム・各種団体（JFA・JCE・郵便局・地域交通機関等）との連携
- 学校・公共施設以外の施設（大学・企業・フィットネスクラブ・スイミングスクール）の活用
- 地域スポーツクラブとの連携（支援アプリ等を利用した連絡方法の検討）
- 広域活動（ノウハウ・視察場所）への協力体制
- 近隣自治体との広域連携
- 大会の変更（リーグ戦・レベル別大会等）

ステージ4：平日も含めた地域展開へ

- 民間資金の活用（企業版ふるさと納税）
- スポンサーシップの活用
- 自治体主導のクラウドファンディングの活用
- 地域クラブ運営の効率化促進（支援アプリ等の導入）
- 公認クラブマネージャー及びアシスタントクラブマネージャー資格取得の促進
- 公認スポーツ指導者資格取得の促進

学校部活動の地域連携及びクラブ活動への移行に向けた推進計画（抜粋）

【推進計画策定の目的】

①少子化の中でも部活動は、生徒がスポーツ・文化活動に継続して関与することができ、健康を維持する。
②「地域の子どもは、学校を卒業後も地域で暮らす」という意識の下、地域におけるスポーツ・文化活動の継承と発展を図り、学校と社会のつながりを強化し、地域社会の活性化を図る。
③学校の働き方改革を推進し、学校教育の質を向上させる。

【取組の基本方針】

（1）地域クラブ活動の定位置
各自治体は、学校部活動の定位置を確保し、学校部活動と連携し、機会を確保し、多様な世代とのコミュニケーションを通じて、地域の学校部活動の発展をさらに推進させる。各自治体の学校部活動の定位置を確保し、学校部活動と連携し、機会を確保する。
（2）地域クラブ活動の推進体制
各自治体は、学校部活動の定位置を確保し、学校部活動と連携し、機会を確保する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 群馬県地域クラブ活動体制整備検討委員会、ワーキンググループ会議にて、検討を行う。
- 実証事業を行っている市町村から参加者負担の課題を挙げていただく。その課題について、検討委員会やワーキンググループ会議でどのような支援が可能か検討を重ねていく。

取組の成果

- 実証事業を実施している市町村は、参加者から参加費を徴収していないことが共有された。
- 実証事業を実施している市町村の中には、参加費について試算を進めているところもあった。

今後の取組における課題

- 参加費を徴収していない現段階では、山間部だけでなく、近隣の学校までの距離がある市町村等、生徒の移送について、保護者が負担に感じているようである。

課題への対応方針

- 国交省発出文書について、関係部署と連絡調整を行い、地域公共交通をうまく活用することを検討していく必要がある。

費用負担の在り方に関する取組

- 群馬県地域クラブ活動体制整備検討委員会の実証事業ワーキンググループ会議にて各市町村の状況について情報共有を行った。
 - ・ 参加者から保険料も参加費も徴収していない市町村、保険料のみ徴収している市町村があった。
 - ・ 参加費の負担感よりも、生徒の移動に伴う保護者の負担増と、生徒が自転車で移動する際の交通事故へのリスクについて心配をする声があがった。
 - ・ 実証事業を実施している市町村の中には、参加費について試算を進めているところもあった。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組

取組事項

- 実施報告書の作成し、各市町村や関係団体に配布する。これまで実証事業を行ってきた市町村の経緯とともに、これから取組もうとする市町村への参考資料とする。
- ホームページを開設し、群馬県の地域展開についての情報を掲載する。

取組の成果

- これまで配布するなかで、これから取組もうとする市町村にとっては貴重な情報源になっている。
- 群馬県の情報を収集する際に、「ホームページで見られてよかった」といった声があった。また、セミナーやシンポジウムを、ホームページから確認して申し込む人がいた。

今後の取組における課題

- 「セミナーやシンポジウム、会議の様子等を知ることができたら」といった声が届いている。

課題への対応方針

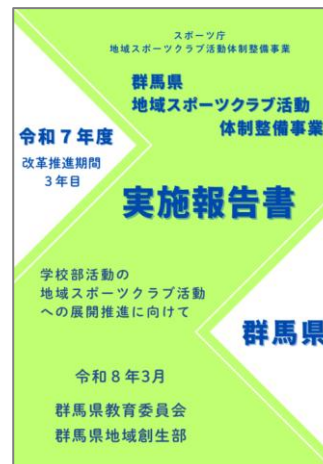
- 次年度、実施報告書について作成するかは検討中ではあるが、冊子での作成からデータでの作成を検討している。
- ホームページの内容について、今後も検討していきたい。

実施報告書

- 改革推進期間における実証事業の取組を実施報告書にまとめた。
主な内容
群馬県の取組 実証事業実施市町村の取組 意識調査

ホームページの開設

- 令和7年4月より、群馬県のホームページ内に、専用ページを開設した。



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 伴走支援の強化を図った1年であった。
- 総括コーディネーター1名、コーディネーター5名の6名体制が2年目として、市町村・関係団体との連絡調整・助言・支援の体制が、より円滑に運営できたことは、とても有意義であった。
- 実証事業に取り組む市町村が増えるとともに、それぞれの市町村の予算で取り組む市町村も多く、その広がりを実感した。一方で、何から取組めばよいのわからず1歩を踏み出せない市町村も見受けられた。そこで、市町村担当者が、取組むきっかけや見通しがもてるよう、「部活動地域展開チェックリスト」を作成した。
- 県担当者および総括コーディネーターは、市町村や関係団体からの依頼に対応し、協議会や会議で講演したり、説明したりし、関係者の理解を深められるように努めてきたが、さらなる改善をするため、「ぐんまコーディネーター派遣制度」を設立し、運営につとめた。
- ホームページを開設するとともに、セミナーを実施し、周知不足の解消に努めることができた。
- 積極的に県外の先進取組自治体を視察したり、研修会等に参加したりすることで、地域移行についての動向や様々な事例を学び、県内市町村や関係団体への指導助言に役立てることができた。
- 8月には、全国の担当者や関係者を一堂に会したシンポジウムを開催し、繋がりを持つと同時に、情報交換等を行うことができた。
- 2月には、実証事業を行っている市町村から生徒と保護者を募集し、直接声を聴くワークショップを開催することができた。今後も当事者である生徒・保護者の声を大切にしていきたい。

●成果の評価

- 総括コーディネーターを核とし、コーディネーターを活用した市町村・関係団体との連絡調整・助言・支援の体制が、より円滑に運営できたことは、次年度から始まる改革実行期間に向け、大きな財産となった。
- 巡回訪問だけでなく、チェックリストの作成、コーディネーター派遣制度の設立等、市町村への伴走支援を強化できた。
- 改革推進期間の3年間で、県が実施してきた様々な取組が、少しずつ実を結んできていると感じる。県や先行的に取り組んでいる自治体の熱量が県内市町村に伝播し、市町村が自発的に、主体的に地域展開に取り組始めた様子も伺える。今後も、継続的に市町村の取組を支援し、行政や学校、地域や保護者の方々をはじめ関係者の地域移行への理解が深まるよう、取組を進めていきたい。

●今後に向けて

- 今年度は、多くの市町村で、地域展開に前向きに取り組んでいただいており、推進する上で課題が少しずつ明確になってきている。改革実行期間の前期で、市町村が大きく前に進められるよう、市町村に寄り添いながら、県としても伴走支援を続けていきたい。
- 広域連携に向けて情報交換を行うとともに課題の整理を行いたい。
- 県中体連との連携をさらに強化し、大会のあり方について課題を整理し、解決していきたい。
- 生徒の移動手段について、課題を整理するとともに、関係部局や関係団体と連携をとりたい。

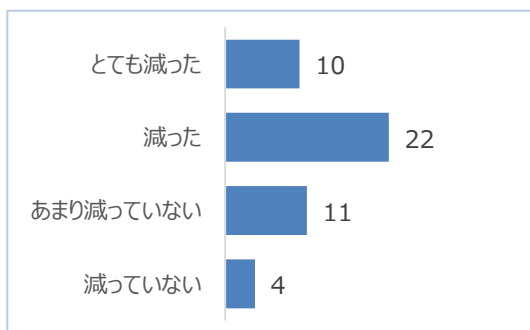
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

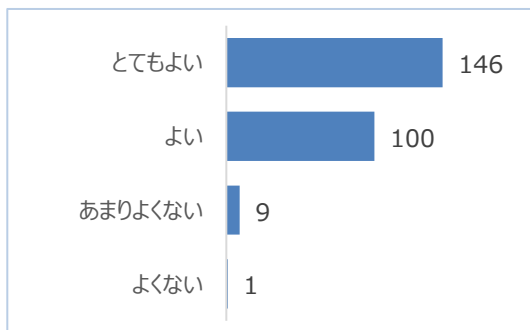
【顧問】

「地域スポーツクラブ活動」において、地域の指導者が指導することで、学校部活動の負担感は軽減されましたか



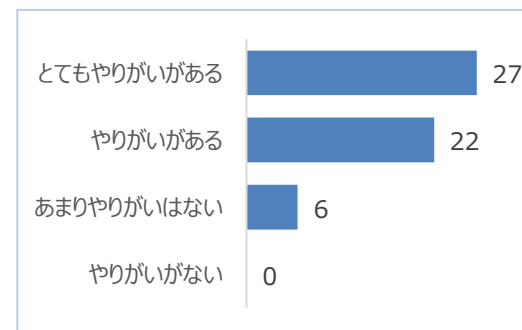
【生徒】

「地域スポーツクラブ活動」で、地域の指導者が指導することについて、あてはまる気持ちを教えてください



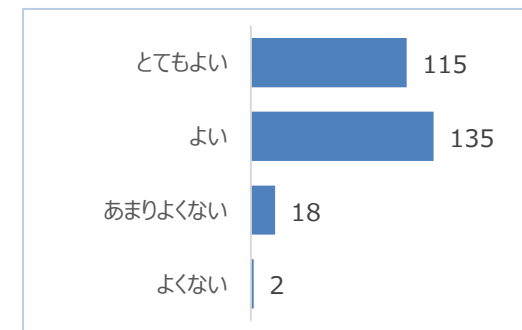
【地域指導者】

「地域スポーツクラブ活動」で指導することについて、あてはまる気持ちを教えてください



【保護者】

「地域スポーツクラブ活動」で、地域の指導者が指導することについて、あてはまる気持ちを教えてください



●参加者/関係者の声

顧問

- ・指導という面や都合の悪いときは任せられるという点で負担が減ったが、参加するという点では時間的な負担は減っていない。
- ・土日の部活動が減り、休日にゆとりができ時間の余裕が持てるようになった。月に1、2回でもありがたい。等

地域指導者

- ・子どもの成長する姿、笑顔を見るのは楽しいし、子供たちとの時間が楽しい、やりがいを感じる。応援したい。社会貢献、自己啓発につながっている。
- ・競技を通して、子供たちや他の指導者とのつながりが得られた。等

生徒

- ・クラブの練習時間が増えると勉強との両立が難しくなる。
- ・クラブから大会に出られるようになってほしい。
- ・送迎が難しい家庭もある 学校での練習がよい。
- ・自分たちで練習を考えたい。等

保護者

- ・専門的な知識や経験のある方に指導してもらって、質の高い練習が受けられる。
- ・地域との結びつきができ、様々な体験ができるようになる。
- ・子どもの選択肢が広がるのがよい。等

2.実証内容と成果③

参考資料



【群馬県地域クラブ体制整備検討委員会】



【群馬県地域クラブ体制整備検討委員会 実証事業WG会議】



【群馬県部活動改革セミナー（太田）】



【群馬県部活動改革セミナー（中之条）】

2.実証内容と成果③

参考資料



【運動部活動推進シンポジウム】



【運動部活動推進シンポジウム】



【地域クラブ活動への地域展開シンポジウム inぐんま】



【地域クラブ活動への地域展開シンポジウム inぐんま】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

年度		2	3	4	5	6	7
国	フェーズ	改革準備期間			改革推進期間		
	国事業等	地域運動部活動 推進事業			実証事業		
		運動 文化	2市町 前橋市 千代田町	4市町 前橋市 吉岡町 玉村町 千代田町 1町 千代田町	5市町村 1団体 2市町	8市町村 1団体 3市町	12市町村 1団体 3市町
群馬県	休日 地域展開 (市町村割合)	—	—	—	43% 実績	43% 実績	69% 実績
	推進計画				5月策定		改定作業
	地域クラブ活動体制整備検討委員会	群馬県部活動運営の 在り方検討委員会を開催			年3回 (WG2回)	年2回 (WG2回)	年2回予定 (WG6回)
	コーディネーター配置	—	—	—	1名 総括コーディネーター1名	6名 総括コーディネーター1名 コーディネーター(運動)5名	7名 総括コーディネーター1名 コーディネーター(運動)5名 コーディネーター(文化)1名
	市町村訪問				全市町村実施	全市町村実施	全市町村実施

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

今後の取組（令和8年度）

役割1 推進体制の整備及び全体方針の策定・周知等

(1) 体制整備	①体制整備検討委員会	継続	
	②コーディネーター配置	継続	
(2) 推進計画	③推進計画改訂版の発出	新	本文・概要版・保護者向けリーフレット
(3) 周知・広報	④ホームページ	継続	
	⑤グンマ未来地域クラブ活動レター発行	継続	
	⑥セミナー	強化	周知活動の継続（地区別、対象別、課題別、平日・休日）
	⑦シンポジウム	強化	県内関係者の課題に沿った内容に
	⑧地域展開の説明動画作成（予定）	新	新ガイドラインに沿った内容

役割2 市区町村へのきめ細かなサポート

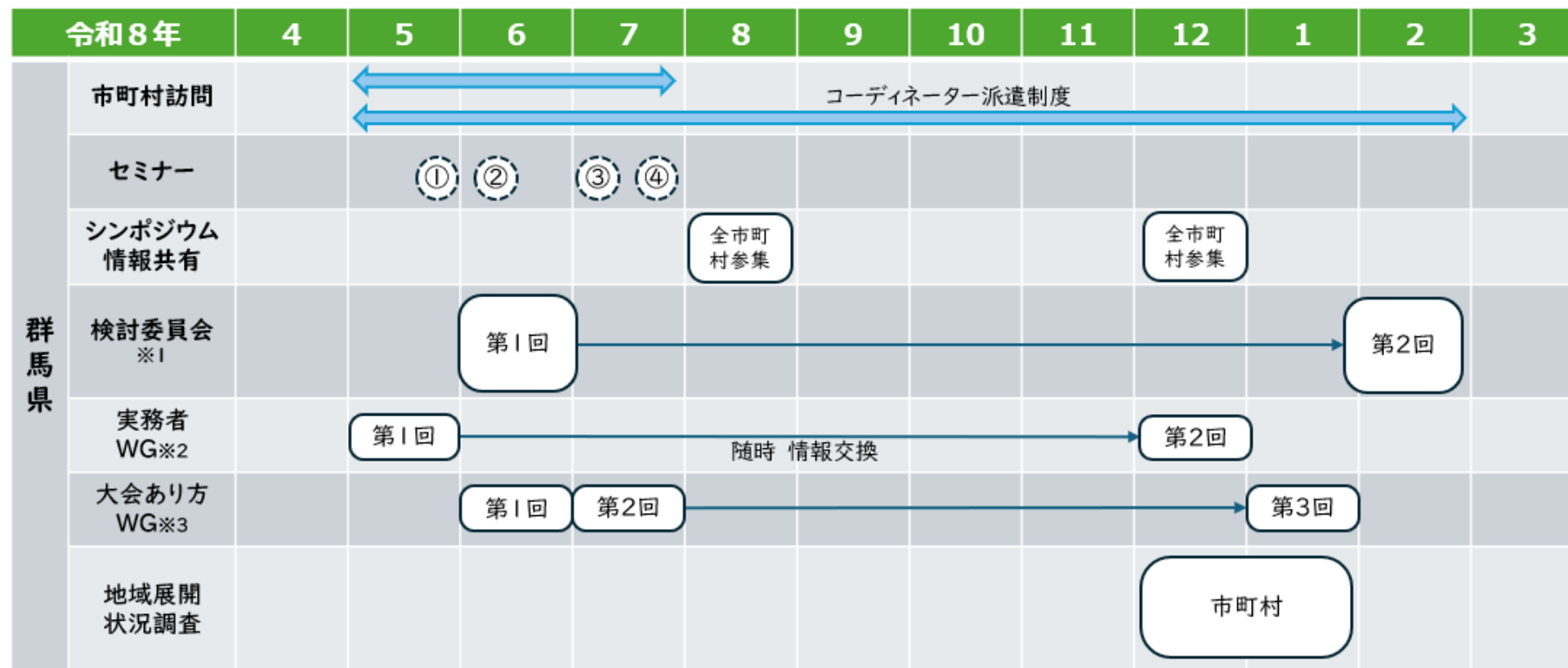
(1) 伴走支援・指導助言	①35市町村巡回訪問	強化	チェックリストを活用し、課題・支援の明確化を図る
	②コーディネーター派遣制度	継続	
	③チェックリスト（自治体向け）	強化	新ガイドラインに沿った内容へ
	④チェックリストを2種類作成（予定）	新	学校版・保護者版など実施主体へアプローチ
	⑤先行取組自治体の視察や研修会等参加	強化	市町村の課題解決に向けた視察を計画
(2) 広域連携	⑥広域連携におけた情報交換会・課題整理	新	教育事務所管内をベースに情報交換会が実施できる体制づくり

役割3 地域展開等に向けた広域的な基盤づくり

(1) 関係団体との連携体制	①県中体連・県吹奏楽連盟との連携強化	強化	大会のあり方について検討する機会づくり
(2) 指導者確保・研修	②指導者・サポーターバンク	強化	指導者の質の担保（チェック体制）
(3) 大会参加の促進	③ ①同様	強化	

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ



※1 群馬県地域クラブ活動体制整備検討委員会

※2・3 検討委員会内のワーキンググループ会議

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県前橋市

自治体名： 群馬県前橋市

担当課名： 学校教育課

電話番号： 027-898-5862

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	311.59km ²
人口	336,154人
公立中学校数	20校
公立中学校生徒数	7,421人
部活動数 (運動部活動のみ)	336部活
地域クラブ活動数	約100クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

○ 前橋市における現状

- 現在19競技において、中学校部活動の受け皿となる地域クラブが100以上立ち上がり、実際に学校施設や私有施設等で活動している。また、公益財団法人前橋市まちづくり公社が運営する指導者バンクへも、現在15競技、53名の指導者が登録されている。前橋市まちづくり公社が、部活動の地域連携・地域展開の運営主体として、「中学生スポーツ活動推進事業」を実施しているが、第2・第4土日を「部活動休止日」とし、その日に「中学生・多様な学びの日」として、様々な体験活動やイベントを開催している。実績としては、146のイベントが開催され、1,605名の中学生が参加した。イベントの種類も多岐にわたり、参加者数も年々増加しており、認知度が高まってきている。
- 「令和9年度8月末までに、休日の学校部活動を地域クラブへ移行」「令和12年度末までに、平日に地域クラブが活動できるよう体制の整備を目指す」という本市の取組目標を設定した。
- 実証事業を行っている明桜中学校のバレーボール部は、スポーツ少年団が休日の部活動を担っている。連携を始めてから、3年が経つが、少しずつ生徒も技能が向上する中で、少年団の活動も含めて活動したい生徒および保護者と、部活動のみで活動していきたい生徒および保護者とで、活動の目的等に対する意識の違いが生じていたが、来年度の3年生が引退した後、平日の指導を含めて、地域クラブへ展開していく予定となった。



中学生スポーツ活動推進事業は、休日の学校部活動が段階的に地域に移行することに伴い、多様なスポーツ活動の機会を提供し、専門性の高い指導を行うことを目的としています。

中学生スポーツ活動推進事業

令和7年度参加者募集

土曜日開催

サッカー 9:30~11:30
4月12日、5月10日、6月14日、7月12日、8月9日
対象：中学生、小学6年生 定員：30名
会場：前橋サッカーパーク

陸上競技 4~6月：13:00~15:00
7~8月：8:00~10:00
4月19日、4月26日、5月24日、6月7日、6月28日
7月26日、8月9日、8月23日
対象：中学生 定員：100名
会場：Fuji Language School 玉山運動場

バドミントン 9:30~11:30
4月26日、5月24日、6月28日、7月26日、8月30日
対象：中学生、小学6年生 定員：30名
会場：しんしん大運動場

スケートボード 9:00~11:00
4月12日、5月10日、6月14日、7月12日、8月9日
対象：中学生、小学6年生 定員：15名
会場：奥平運動公園 スケートボード

金曜日開催

スポーツクライミング 18:30~20:00
4月11日、5月9日、6月13日、7月18日、8月22日
対象：中学生、小学6年生 定員：20名
会場：ママト市民体育館前棟

トランポリン 18:00~20:00
4月11日、5月9日、6月13日、7月18日、8月22日
対象：中学生、小学6年生 定員：20名
会場：Pureスポーツクラブ

体験コンディショニング 18:30~20:00
4月11日、5月9日、6月13日、7月18日、8月22日
対象：中学生、小学6年生、一般(18歳以上) 定員：30名
会場：ママト市民体育館前棟

硬式テニス 9:00~11:00
4月12日、5月10日、6月14日、7月12日、8月9日
対象：中学生、小学6年生 定員：20名
会場：ミニミニテニスクラブ

柔道 8:00~10:00
4月26日、5月10日、6月28日、7月26日、8月9日
対象：中学生 定員：100名
会場：ママト市民体育館前棟

バスケットボール 9:30~11:30
4月12日、5月10日、6月14日、7月12日、8月9日
対象：中学生 定員：30名
会場：しんしん大運動場

各種目の詳細・お申込みは
まえばしスポーツクラブ
ホームページより
お願いいたします！

※令和6年度の参加者数も合わせてお申込みを案内いたします。
※今月以降の日程は決定次第、ご案内いたします。

お問い合わせ 公益財団法人前橋市まちづくり公社 スポーツ部地域事業推進室(ママト市民体育館前棟内) 詳しい情報はまえばしスポーツクラブホームページをご確認ください。

0282-265-0900 tsm@tdk.or.jp maebashi-cc.or.jp

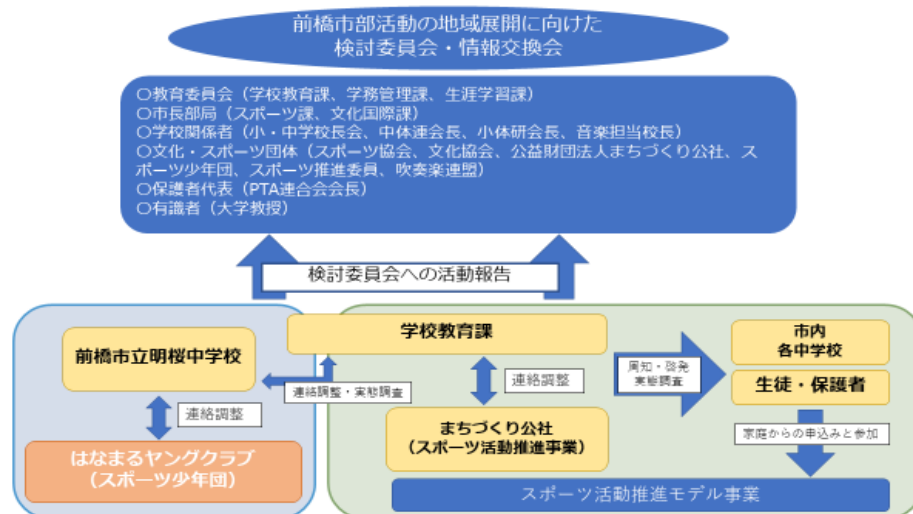
中学生スポーツ活動推進事業 「中学生・多様な学びの日」

- ・サッカー ・バスケットボール ・陸上競技
- ・柔道 ・バドミントン ・硬式テニス
- ・スケートボード ・スポーツクライミング
- ・トランポリン ・体感コンディショニング 等

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課）

- ・ 前橋市まちづくり公社が実施する「中学生スポーツ活動推進モデル事業」を実施
- ・ 明桜中学校でのバレーボール指導について、地元スポーツ少年団に指導を依頼することで、休日の地域移行を実施するとともに、平日への移行についても実証
- ・ 前橋アカデミー中学バレーボール教室について、部活動にとらわれない多様な活動を選択できるような環境整備や地域指導者の指導体制を模索する

（スポーツ課）
中学生を受け入れる地域スポーツクラブに補助金を交付
統合で空いた中学校の整備

年間の事業スケジュール

令和7年 5月	・ 情報交換会① ・ 中学生多様な学びの日（4月～3月）
令和7年 6月	・ 検討委員会① ・ 地域スポーツクラブ活動補助金制度を確立
令和7年 7月	・ 情報交換会② ・ 地域展開だより開始
令和7年 8月	・ 検討委員会② ・ 前橋市部活動の地域展開に向けた推進計画について
令和7年10月	・ 情報交換会③ ・ 警備システムの検討
令和7年11月	・ 検討委員会③ ・ 第1号文化系地域クラブ登録
令和8年 1月	・ 情報交換会④ ・ 中学校入学説明会資料配布
令和8年 2月	・ 検討委員会④ ・ まえばしスポーツ・文化クラブ「指導者研修会」 ・ 地域クラブ指導者研修・交流会 ・ 前橋市部活動の地域展開に向けた推進計画策定
3月	

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		103クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	73クラブ（72部活動）	
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数	0	
全体の指導者数	約150人	全体の運営スタッフ数	約300人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
はなまるクラブ	市町村運営型	女子バレーボール	・平日 39回 ・休日 18回	平日 16:00～ 18:00 休日 15:30～ 17:30	中学3年 中学2年 中学1年	通年	3名	5名	2,000円/月	中体連部活動
いわがみレーシングクラブ	市町村運営型	陸上競技	土曜日または日曜日	9:00～ 12:00	中学3年 中学2年 中学1年 小学生	通年	3名	5名	一般： 1,500円/月 選手： 2,000円/月	中体連部活動
MMBC	市町村運営型	軟式野球	土曜日または日曜日	8:30～ 11:30	中学3年 中学2年 中学1年	通年	2名	7名	500円/月	中体連部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

中学生スポーツ活動推進事業「中学生・多様な学びの日」

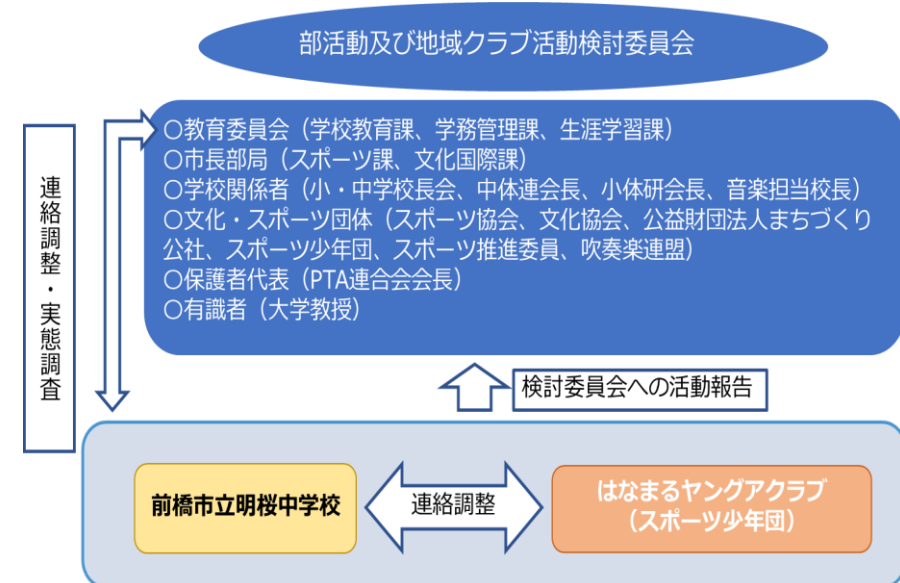
2.実証内容と成果

主な取組例

●はなまるヤングクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	女子バレーボール
運営団体名	はなまるクラブ
期間と日数	女子バレーボール：5～6回 毎週土曜 時折、日曜も活動
指導者の主な属性	スポーツ少年団指導員
活動場所	前橋市立明桜中学校体育館
主な移動手段	自転車、徒歩
1人あたりの参加会費等（月）	2,000円（スポーツ安全保険料込）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- 代表者：クラブを代表する責任者
- 指導者（監督・コーチ）：技術指導をはじめ練習計画の作成等、活動の全体指導を行う
- 監事・連絡責任者：クラブを監督し、活動場所や大会等の連絡調整を行う
- 会計：クラブ活動に必要な会費の徴収や使用料の支払い等、会計業務を行う
- 指導補助員：クラブの運営や指導者の補助業務を行う

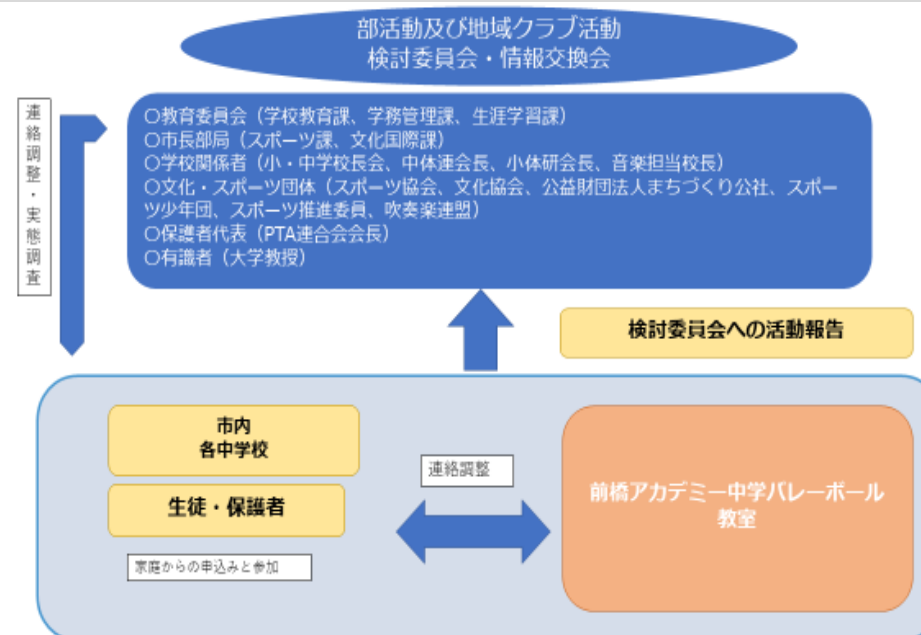
2.実証内容と成果

主な取組例

●前橋アカデミー中学バレーボール教室 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール男女
運営団体名	前橋バレーボール協会 アカデミー前橋
期間と日数	第2・第4土日のどちらか（月2回）
指導者の主な属性	バレーボール協会役員
活動場所	東・荒砥・元総社・みすき・第五中学校体育館 男子1地区、女子4地区
主な移動手段	徒歩・自転車・保護者送迎
1人あたりの参加会費等（月）	なし
1人あたりの保険料	生徒：スポーツ安全保険800円（年）

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

- ・ 運営スタッフは、各地区（会場）の責任者、学校との調整や活動内容の決定等
- ・ 指導者は、主に当日の技術指導にあたる

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 情報交換会、検討委員会の実施
スポーツ協会、文化協会、まちづくり公社、PTA連合会、スポーツ推進委員会、スポーツ少年団、小中学校校長会、小体研・中体連会長、吹奏楽連盟、学識経験者、スポーツ課、文化国際課、教委指導担当次長、教委学校教育課長、教委学務管理課長、教委生涯学習課長
- 「まえばしスポーツクラブ」設立【公益財団法人前橋市まちづくり公社】
主な内容は、①地域クラブの団体登録②指導者バンク登録③指導者派遣事業
- 地域クラブの学校施設利用に向けた体制整備
地域クラブ立ち上げの手順書・申請書類（規約含む）等準備、周知
休日に中学校体育施設を利用する申請
- 地域展開だよりの配信・配布

取組の成果

- 情報交換会4回、検討委員会4回、合計年間8回の会議が行われ、様々な意見交換が行われ、前橋市の地域展開に向けて有意義な会議になっている。
- 地域クラブの団体登録数
令和6年度：35団体 令和7年度：76団体
- 指導者バンク登録も54名に増えた。
- 学校施設を利用する地域クラブが72団体に増加した。
- 中学生・多様な学びの日のイベント数が146件、参加人数が1605名に増加した。
- 地域展開だよりを作成し、配布・配信した結果、小中学校の教職員・児童生徒・保護者だけでなく、地域の方々にも情報提供することができた。

今後の取組における課題

- 指導者バンク登録も増えてきたが、地域クラブでは保護者が代表者になっているところもあり、指導者の不足が課題になっている。
- 昨年度から登録団体数は約2倍となったが、今後は立ち上がった地域クラブが継続できるよう支援することが課題である。
- 専門的指導や大会参加を可能にするため、地域クラブに指導者資格保有者を増やす。
- クラブ員の継続的な確保をする。
- 地域クラブは他チームとのネットワークがなく、練習試合ができない等の課題がある。

課題への対応方針

- 指導者バンク登録が増えるよう、県の指導者バンクと連携して本市にも登録するシステムを構築している。
- 来年度は、団体登録紹介ページを改良したり、団体の検索機能や問い合わせフォームの作成したりし、ICT活用による運営業務の効率化を図る。
- クラブの周知や紹介を促進するため、ホームページを整備し、地域クラブの検索や問い合わせができるようにする。
- 練習試合や合同練習を希望する地域クラブへ他の地域クラブを紹介できる仕組みづくり。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 公益財団法人 前橋市まちづくり公社が行っている事業
 - ・「指導者・サポートバンク登録」
地域クラブで指導したい方に登録していただき、競技経験や指導資格等の情報をもとに、指導者を必要とするクラブへ派遣している。
 - ・「指導者派遣事業」
指導者を探している地域クラブに対し、登録者の中から条件に合う指導者をマッチングし、まちづくり公社から派遣する仕組みをつくっている。

取組の成果

- 指導者・サポートバンク登録について
 - 令和6年度：46名
 - 令和7年度：56名
- 指導者派遣事業：マッチングできた件数
 - 令和6年度：0件
 - 令和7年度：1件（指導者は1人、派遣回数は2回）

今後の取組における課題

- 指導者・サポートバンク登録数を増やし、地域クラブで専門的な指導者が指導に当たれるようにする。
- 専門的指導や大会参加を可能にするため、地域クラブに指導者資格保有者を増やす。
- 保護者が指導者になっている地域クラブもあることから、指導者の質の保障を行う。

課題への対応方針

- 県が行っている指導者バンクと連携して、前橋市で指導を行える指導者登録を増やしていく。
- 指導者バンク活用のため、団体への周知を行うことや指導者資格取得の促進
- まちづくり公社の指導者研修会への悉皆や県教委主催の指導者研修会に参加し、指導者資格が得られるような制度を確立していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 指導者バンク登録が増えるよう、県の指導者バンクと連携
- 県指導者バンクから前橋市にも登録できるシステムの構築

指導者研修の内容

研修名	まえばしスポーツ・文化クラブ 指導者講習会
講師	高崎商科大学 短期大学部 現代ビジネス学科 上條 隆 特任教授
研修内容	1. 前橋市の部活動地域展開について (前橋市教育委員会 学校教育課指導係 指導主事 草間 栄) 2. ハラスメント防止について 3. 安全管理について 4. 熱中症対策について (高崎商科大学 短期大学部 現代ビジネス学科 上條 隆 特任教授)

まえばしスポーツ・文化クラブ 指導者講習会

開催日：令和8年 2/22 (日)・3/7 (土)
※どちらか1日に参加してください。

時 間：13時00分～16時45分
(受付12時30分～)

会 場：前橋市総合福祉会館
第1・第2会議室

講 師 高崎商科大学 短期大学部
現代ビジネス学科

上條 隆 特任教授

専門領域はスポーツ医学・運動生理学・運動学・野球。
群馬県スポーツ協会スポーツ医科学委員会
委員を務め、県内外の指導者講習会で多数
の講演を実施。

定 員：各日50名 参 加 費：無料 持ち物：筆記用具

参加対象：①まえばしスポーツ・文化クラブ団体登録へ登録した団体の指導者・役員等

※令和8年度の登録更新をするために団体から少なくとも1名の受講が必須です。

②まえばしスポーツ・文化クラブ指導者・サポートスタッフバンク登録者

※登録期間(3年間)のうち、1回受講することでさらに3年間登録の更新ができます。

③前橋市内の地域クラブやスポーツ少年団等の指導者及び今後指導を行う予定の方

申込期間：令和7年12月10日(水)から

令和8年 2月10日(火)まで

申込方法：右記二次元コード申込フォームより



申込フォーム
はこちら

内 容：

内容	講師
前橋市の部活動地域展開について	前橋市教育委員会事務局 学校教育課 指導係 副主幹 指導主事 草間 栄 氏
ハラスメント防止について	高崎商科大学 短期大学部
安全管理について	現代ビジネス学科 特任教授
熱中症対策について	上條 隆 氏

お問合せ

公益財団法人前橋市まちづくり公社 地域事業推進課 (ヤマト市民体育館内)
電話：027-265-0900 メール：maebashin@maebashi-c.or.jp

主催：公益財団法人前橋市まちづくり公社
後援：前橋市 前橋市教育委員会 前橋市スポーツ協会

指導者研修受講者の声

参加者：前橋市の部活動の地域展開について、理解できた。

また、子どもへのハラスメント防止や安全管理について、改めて見直し、自分の指導について考え直すきっかけになった。さらに毎年猛暑が続いているので、熱中症対策についてもしっかり行い、安全に効果的な練習ができるようにしていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 公益財団法人 前橋市まちづくり公社との連携
- ・ 団体登録をした地域クラブの共有
- ・ 休日に中学校体育施設を利用している地域クラブの共有
- ・ 中学生多様な学びの日の教室やイベントの共有と情報提供
- ・ 相互に行われる各種会議の参加、情報共有

取組の成果

- 公益財団法人 前橋市まちづくり公社との連携
- ・ 団体登録した地域クラブを共有することで「地域展開だより」に反映され、小中学校の児童生徒・保護者・市民へ情報提供された
- ・ 休日に中学校体育施設を利用している地域クラブを共有することで、どの地域クラブがどこで活動しているか、確認し、共通理解することができた
- ・ 中学生多様な学びの日の教室やイベントの情報を教育委員会から保護者連絡ツールを使って配信し、情報提供することができた
- ・ 相互に行われた会議に参加し、互いの状況を説明することで、それぞれの状況の理解が深まり、今後の課題も明確になって、協力して方針を出していくことができた

今後の取組における課題

- 公益財団法人 前橋市まちづくり公社との連携
- ・ それぞれにある問い合わせの内容の共有
- ・ 地域クラブへの問い合わせ方法の確立
- ・ 中学生多様な学びの日への参加増進
- ・ 地域クラブとの交流会
- ・ 大会出場に向けての県、市中体連との連携

課題への対応方針

- 公益財団法人 前橋市まちづくり公社との連携
- ・ 互いに電話・メールでの連絡を密にとり、情報を共有
- ・ 地域クラブへ問い合わせが直接できるようなHPの修正
- ・ 中学生多様な学びへの参加者が増加するような情報提供の工夫
- ・ 教育委員会主催、地域クラブ交流会の定期的な実施
- ・ 県、市中体連と打ち合わせや会議出席依頼の実施

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

- 中学生多様な学びの日の事業について
- ・ 今年度の取組事項
前橋市が第2・第4土日の部活動を休止とし、多様な学びの日とする中、多様な学びの日を中心に年間を通して計11種目のスポーツ教室を開催し、中学生が多様なスポーツ活動に参加できる取組を行った。
- ・ 学校、児童生徒、保護者連絡ツール「すぐー」を活用した情報発信

取組の成果

- 中学生多様な学びの日の事業について
 - ・ 取組の成果
令和7年度は4月～12月まで延参加人数862人であったのに対し令和8年度は4月～12月までの延参加人数は1,688人であり、多くの市内中学生が新しいスポーツに挑戦する目的やスキルアップを目的に参加することができた。
- また、参加した生徒や保護者から「参加費をもっと取っていいので、回数を増やしてほしい」等の要望があり、ニーズが高まってきている。

今後の取組における課題

- 中学生多様な学びの日の事業について
- ・ 今後の取組における課題
参加人数の確保各地域で地域クラブが立ち上がり、これまでの参加者が各地域クラブで活動するケースが増えている。種目によっては参加者が少ない種目がある。
保護者の送迎の負担
各種目1か所で実施しているため、保護者の送迎が必要な生徒は、保護者の都合で参加できない日もある。

課題への対応方針

- 中学生多様な学びの日の事業について
- ・ 課題への対応方針
地域クラブの立ち上がりの状況や中学生のニーズを把握し、実施種目や内容を検討する必要がある。令和9年の9月よりすべての土日が部活動休止日となるのに向けて、事業全体の概要（種目・開催頻度・参加料等）を検討する必要がある。
保護者の送迎については、地域クラブの生徒移動の支援と一緒に検討する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

地域スポーツ活動補助金

- 本市の中学生を受け入れ、スポーツ活動を行う団体がクラブ活動を推進しやすい体制を整備するとともに、保護者の経済的な負担を軽減し、中学生が継続的にスポーツに親しめる環境を整えることを目的として地域スポーツクラブに対して、補助金を交付する。

まえばしスポーツ・文化クラブ指導者派遣事業

- 指導者：指導料（1,800円/h）の2/3の補助を申請
- サポートスタッフ：サポート料（1,200円/h）の2/3の補助を申請

取組の成果

- 地域スポーツ活動補助金
 - 31団体：1,510,000円（50,000円×29団体、30,000円×2団体）
- まえばしスポーツ・文化クラブ指導者派遣事業
 - 今年度、指導料の補助を申請した件数、昨年度の件数令和6年度・7年度ともに0件



今後の取組における課題

- 地域スポーツ活動補助金
 - 参加者が少ない種目や新規クラブは、運営が不安定となり、受け皿となる地域クラブが減少する懸念がある。
 - 国にもスポーツ庁・文化庁の区分けがあるように、地域クラブにもスポーツクラブ、文化クラブがあり、スポーツ課においても、スポーツ・文化の枠を超えての補助金が難しい。
- まえばしスポーツ・文化クラブ指導者派遣事業
 - 指導者派遣事業自体の利用が少ないこと。
 - 補助金の申請にあたり、団体の事務手続きの負担があること。

課題への対応方針

- 地域スポーツ活動補助金
 - 地域クラブの持続的な運営には、指導者の確保や財政面等、引き続き支援が必要となることから、国・県の補助制度の活用しつつ、スポーツ課と教育委員会が緊密に連携し、適正な運営が可能となるよう、持続可能な支援制度の構築に向けて検討する。
 - 新たな組織編成の可能性を含めて検討していく。
- まえばしスポーツ・文化クラブ指導者派遣事業
 - 指導者のいない団体へ指導者派遣事業の周知を行い、指導者派遣の利用を促進する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

本市では、第2・第4土日を部活動休止日としている。この部活動休止日に、中学生を中心に受け入れて活動していただける地域クラブを優先的に、休日の昼間に、中学校施設を利用することができるようにしている。

中学校で設立されている部活動の種目のみ、学校長に事前相談し、目的や運営方法を共通理解し、活動日や活動場所を相談の上、決定している。

また、学校との相談が終了した場合、次の書類を学校へ提出したのち、コピーを学校保管し、原本を教育委員会におくり、チェックして、全体を把握している。

取組の成果

休日に中学校体育施設を利用する地域クラブの申請数は、今年度72団体となり、昨年度より倍以上の数に増え、立ち上がっている地域クラブの7割を占めている。

休日に活動する中学生の受け皿となる地域クラブが多く立ち上がっており、生徒が通っている中学校の体育施設を有効に利用している。地域の方々と協力して活動を支援する体制を整えようとする動きが見えてきた。

今後の取組における課題

休日に利用する地域クラブが増えてきたので、体育施設の鍵の管理が課題である。特に、体育館の鍵の利用方法について市内中学校で統一する必要があるため、検討している。

また、体育施設だけでなく、校舎内の特別教室等を利用する場合、セコムの解除や警備系統の整備も課題である。

今は、部活動の種目のみ限定しているので、各学校対応できているが、今後、種目数を増やしていくことになると学校施設だけでは、あふれてしまう可能性もある。

課題への対応方針

来年度より、地域クラブ数のキーボックスの鍵を学校に配布し、体育館を利用する各地域クラブの代表者にキーボックスの鍵を貸出す。貸し出す鍵には番号を付け、代表者には、責任をもって鍵の管理してもらう。破損や紛失があった場合は地域クラブで弁償する等の注意事項を記入した借用書を作成する。

学校内の活動については、警備系統の導入やシルバー人材センターに管理委託する予算を令和8年度に盛り込み活動を推進していく。

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- ① はなまるヤングクラブ（明桜中学校）前橋市バレーボール協会/アカデミー前橋の活動について
 - 休日の部活動の地域連携・地域展開の段階的な実施に向けた実践研究事例となった。
 - 教員の負担軽減につながった。
 - 地域と連携・協働した活動になった。
 - 生徒の休日の運動機会確保や技能の向上につながった。
 - 長年、外部指導者として携わっていただいた指導者なので、学校や部活動、生徒への理解、保護者や生徒との信頼関係がある。スムーズに地域部活動として依頼できた。
 - 休日のクラブでの活動を通して、生徒が様々な人と関わるようになった。
- ② まえばしスポーツ・文化クラブ（まちづくり公社）の活動について
 - 多様な学びの受け皿として機能し、多くの生徒が参加できた。
 - まちづくり公社を介して、各種スポーツ団体や連盟、協会と連携したスポーツ・文化推進事業が開催できた。
 - 生徒（保護者）の金銭的負担を軽減できた。
 - 学校部活動にはないスポーツについても、活動の場を提供できた。
 - 生徒の休日の運動機会確保や技能の向上につながった。

●成果の評価

- ① はなまるヤングクラブ（明桜中学校）前橋市バレーボール協会/アカデミー前橋の活動について
 - はなまるヤングクラブの生徒は、「地域クラブの方がより専門的なことを教えてもらえる」「ポジションごとに細かな技術指導をしてもらえる」と前向きな意見が多かった。
 - アカデミー前橋の生徒は、「他校の人ともバレーを楽しめる」「たくさんの指導者に教えてもらえる」「学校ではできないポジションの練習もできる」等参加してよかった点が多く上がっていた。
- ② まちづくりスポーツ・文化クラブ（まちづくり公社）の活動について
 - 団体登録や指導者・サポートバンク登録への登録件数が増え、中学生の受け皿となる地域クラブへの認知が高まってきた。
 - 「中学生・多様な学びの日」の教室やイベントの件数と参加人数が増え、生徒・保護者への認知が高まってきた。

●今後に向けて

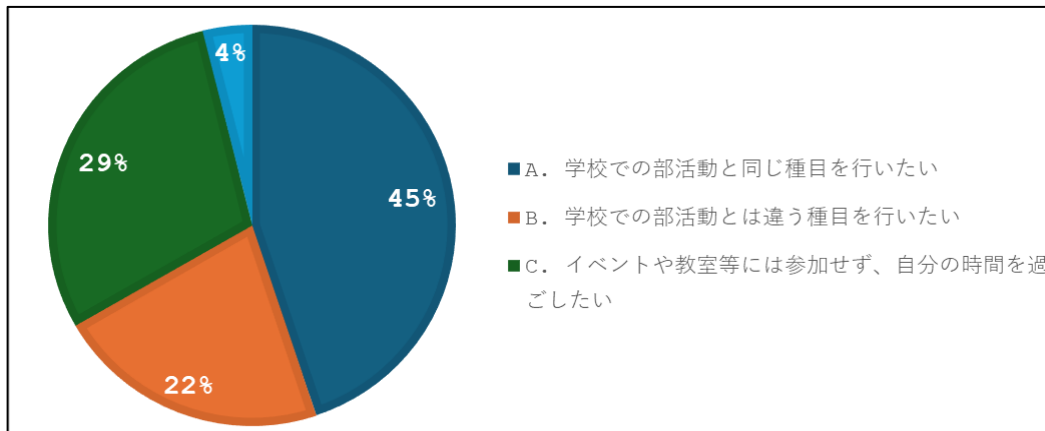
- ① はなまるヤングクラブ（明桜中学校）・前橋市バレーボール協会/アカデミー前橋
 - はなまるヤングクラブは、令和8年度の3年生が引退したら平日にも展開していく予定。
 - アカデミー前橋の活動はなくなり、令和8年度より「中学生・多様な学びの日」の教室として行っていく予定。
- ② まえばしスポーツ・文化クラブ（まちづくり公社）
 - ICT活用による地域クラブ活動の運営業務の効率化
 - 多様目・多世代等地域クラブ活動における新たな価値の創出

2.実証内容と成果②

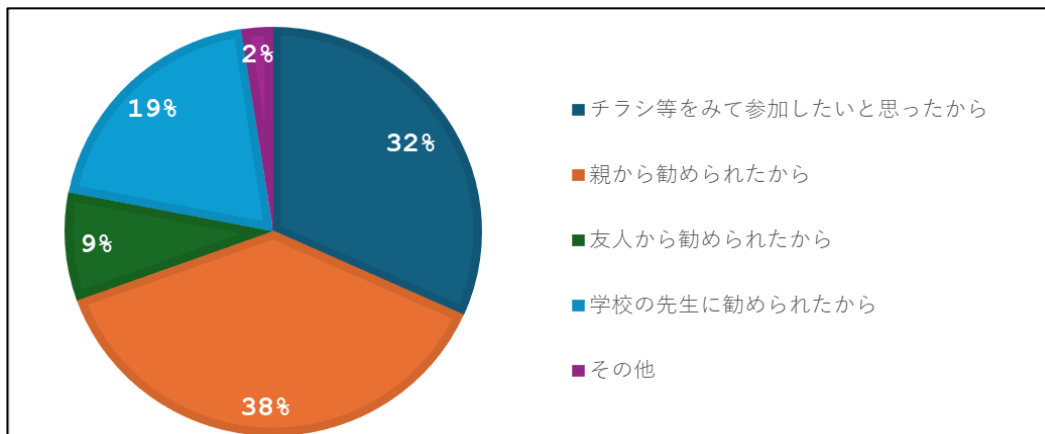
アンケート結果・参加者/関係者の声

●「中学生・多様な学びの日」（児童生徒）アンケート結果

Q.部活動のない休日「多様な学びの日」にはどんな活動をしたいですか。



Q.教室に参加したきっかけを教えてください。



●参加者/関係者の声

参加者①（バスケットボール）

バスケットボールの基礎ができるようになって、自分のできなかったことができるようになった。新しい練習メニューも知れて、部活動でも生かすことができた。

参加者②（ソフトテニス）

持ち方も1から教えてもらい、うまくいったら褒めてもらえるのでモチベーションが上がった。

コーチが丁寧に教えてくれたので、嬉しかった。

参加者③（スポーツクライミング）

いろいろな登りかたがあって、たくさん登れて面白い。

運動不足の解消にもなるし、握力が強くなった。

毎月とても楽しみ。

参加者④（スケートボード）

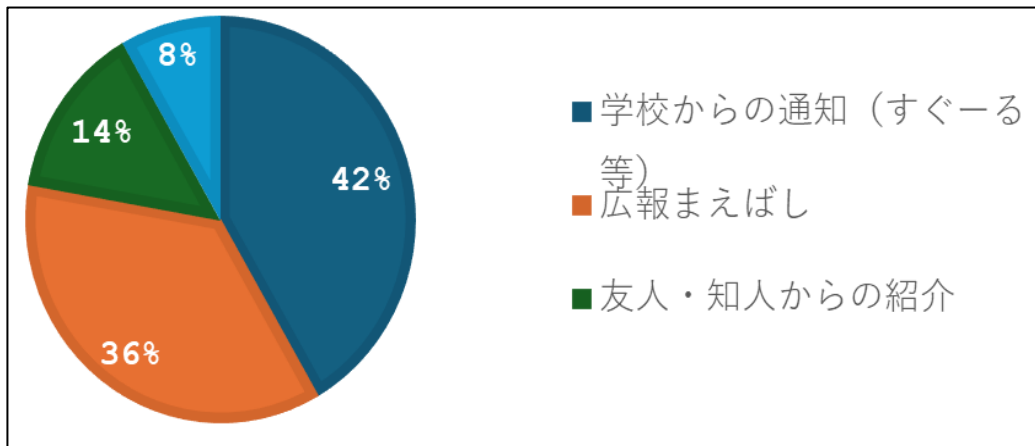
できないことができるようになったり、少しでもすべれたら嬉しかった。知らない知識を教えてもらえて、楽しく練習できたので、とてもよかった。

2.実証内容と成果②

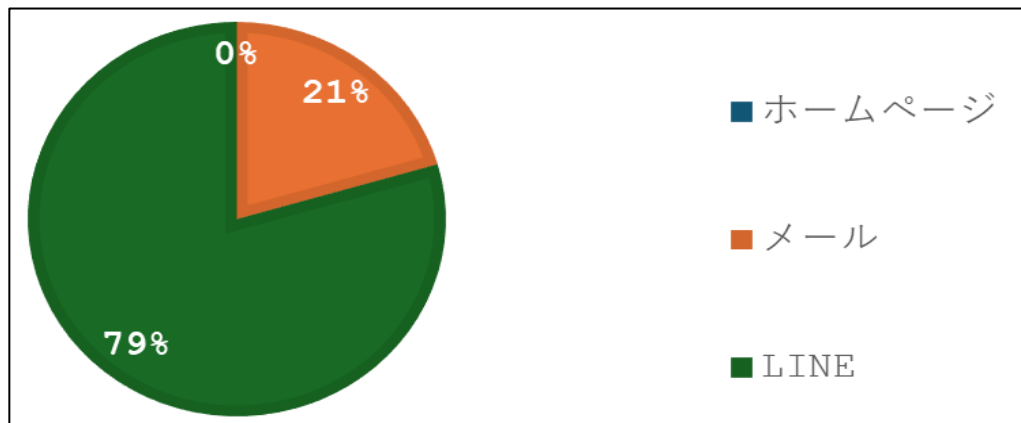
アンケート結果・参加者/関係者の声

●「中学生・多様な学びの日」（保護者）アンケート結果

Q.教室を知ったきっかけを教えてください。



Q.教室の中止・変更等の連絡方法について以下のどの手段が一番便利ですか。



●参加者/関係者の声

保護者①（バスケットボール）

部活動がない日に安価で教えていただき、ありがたいです。いろいろな学校の生徒と交流ができて、毎回楽しく競技させていただいています。

参加者②（陸上）

学校の顧問の先生からは教えてもらえない、専門の練習が出来てよかったです。
また他校の同じ種目の生徒とも交流が出来て、新しい友達も作ることができました。

保護者③（スポーツライミング）

先生方がよく見守ってくださり、細々とは言わず、子ども達に自由にのびのびとやらせてくださり、時々スツとアドバイスされていて、有り難いなと思いました。ありがとうございました。とてもいい経験になりました。

参加者④（スケートボード）

とても和やかで親しみやすく話して下さる先生方で、人見知りの子供も楽しめた。ただ、つき1回しか教室がなく、さらに天気により中止となったこともあり、参加出来たのは数回。あまりに機会が少ないので、モチベーションを保つ事が出来ず、面倒になってしまう様子。行けば楽しいようなのですが。

2.実証内容と成果③

参考資料



**前橋アカデミー
バレーボール教室**

対象：前橋市内中学生

前橋市バレーボール協会主催のバレーボール教室です。令和3年から活動を始め、現在月1, 2回の活動を実施しています。バレーボールがうまくなりたい選手、大募集！一緒にバレーボールしましょう！

初心者大歓迎！

参加希望者は、ホームページ内フォームよりお申し込みください。

次回 7月12日・13日 8:30～11:30 の日程で実施

男子：7/12（土）前橋市立東中学校体育館

詳細はHPを！

女子東地区：7/13（日）前橋市立荒砥中学校体育館

女子西地区：7/12（土）前橋市立元総社中学校体育館

女子南地区：7/12（土）前橋市立第五中学校体育館

女子北地区：7/13（日）前橋市立みずき中学校体育館

持ち物：運動着、シューズ、バレーボール（持っていれば構いません）

不明点は前橋市バレーボール協会お問い合わせフォームでご質問ください。



【アカデミーバレーボール教室】



【明桜中：はなまるヤングクラブ】



【明桜中 はなまるヤングクラブ】

2.実証内容と成果③

参考資料



【中学生・多様な学びの日 陸上教室】



【中学生・多様な学びの日 バドミントン教室】



【中学生・多様な学びの日 スポーツクライミング教室】



中学生・多様な学びの日 バスケットボール教室

2.実証内容と成果③

参考資料



【中学生・多様な学びの日 トランポリン教室】



【中学生・多様な学びの日 水球教室】



【中学生・多様な学びの日 柔道教室】



【中学生・多様な学びの日 体幹コンディショニング教室】

2.実証内容と成果③

参考資料



【中学生・多様な学びの日 スケートボード教室】



【トップアスリートによるバドミントン教室】



【トップアスリートによるバドミントン教室】



【トップアスリートによるバドミントン教室】

2.実証内容と成果③

参考資料



【中学生・多様な学びの日 土曜ワイドラジオ】 令和7年12月28日 上毛新聞掲載



【中学生・多様な学びの日 イベント】



【中学生・多様な学びの日 イベント】

【中学生・多様な学びの日 イベント】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

検討委員会、情報交換会の設
情報置
アンケートの実施

「まえばしスポーツ・
文化クラブ」の設立
「中学生多様な学
びの日」事業開始

令和6年

達成目標の設定
地域クラブ立上げ
開始

「広報資料
HPによる配信

令和7年

地域クラブ立上補助
金制度
指導者研修会実施
地域展開だより配信

令和8年

地域クラブ拡大
認定地域クラブの検討

●令和5年度の主な取り組み

- ・検討委員会、情報交換会の設置
- ・生徒、保護者、教員によるアンケートの実施
- ・「まえばしスポーツ・文化クラブ」の設立
- ・部活動休止日設定（2.3月第2土日）
- ・「中学生・多様な学びの日」事業開始

●実施にあたって生じた課題

- ・部活動の地域移行（展開）の意義やメリット等が生徒や保護者に理解されていない。
- ・部活動を休止する土日を設定したが、部活動の延長的な活動が行われている。そのため、多様な学びの日の体験活動への参加者が少ない。
- ・現行の職員構成では、膨大な業務量が処理しきれない。

●工夫した点 等

- ・部活動の地域移行（展開）への協力、部活動を休止する土日の徹底等を、校長会議等を通して各校へ依頼した。
- ・来年度から地域移行（展開）専門員を雇用する。

●令和6年度の主な取り組み

- ・地域移行リーフレット配信
- ・まえばしスポーツ・文化クラブHP開設
- ・多様な学びの日HP開設
- ・地域移行HP開設
- ・地域クラブ団体登録開始
- ・指導者・サポートスタッフバンク登録
- ・部活動休止日設定（9月～第2土日、1月～第2第4土日）

●実施にあたって生じた課題

- ・部活動のない土日に活動する地域クラブの立ち上げに関する問い合わせが相次いだ。
- ・団体登録と指導者・サポートスタッフバンク登録の登録数が増えない。

●工夫した点 等

- ・地域クラブ立ち上げから団体登録までの手順を示したマニュアルを作成した。

●令和7年度の主な取り組み

- ・部活動休止日設定（4月～第2土日、9月～第2第4土日）
- ・地域スポーツクラブ補助制度運用
- ・指導者謝金補助制度運用
- ・指導者研修会実施
- ・地域展開だより配信、配布
- ・推進計画の策定
- ・パブリックコメント実施・集計

●実施にあたって生じた課題

- ・地域クラブ立ち上げへの補助金申請が多く、当初予算額を上回った。

●指導者謝金補助制度の活用が少ない。

●実施内容、工夫した点 等

- ・地域クラブに対する補助金について、補助の対象となる要件や金額について見直しを行った。
- ・指導者バンク登録者の活用や謝金の支払いを必要要件とする地域クラブ認定制度の検討を、来年度から開始することとした。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和9年8月末までに
休日の部活動を
地域クラブに移行
※休日・・・土曜日・
日曜日・休日



令和12年度末までに
平日に地域クラブが
活動できるよう体制の
整備を目指す

◎前橋市の部活動地域展開に向けたおおまかなスケジュールです

	学校部活動から地域クラブ活動への移行期間				学校部活動の地域展開実行期間			
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
第1土日	学校部活動				R9.9月～ 大会等の特別な場合を除き すべての土日の部活動を休止			
第2土日								
第3土日								
第4土日								
平日	学校部活動				地域クラブ活動			
	・「中学生・多様な学びの日」事業を開始 ※体験教室やイベントを募集 ・様々な地域クラブの立ち上げを開始 ・地域クラブ団体登録・指導者登録を開始 ・できるところから平日の部活動も地域クラブへ移行				・令和9年9月からすべての土日の部活動を休止 ・部活動を休止する土日は、地域クラブ活動や各種体験教室・イベントへの参加が可能			

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

群馬県桐生市

自治体名：群馬県桐生市

担当課名：教育委員会教育環境課

電話番号：0277-46-6423

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	274.45km ²
人口	99,774人
公立中学校数	10校
公立中学校生徒数	1,947人
部活動数 (運動部活動のみ)	100部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

【現状・課題】

〈現状〉

令和7年度公立中学校・義務教育学校後期課程の生徒数は、1,947人であり、平成27年度からの10年間で1,001人（34%）減少し、今後も少子化による生徒数減少が見込まれる。

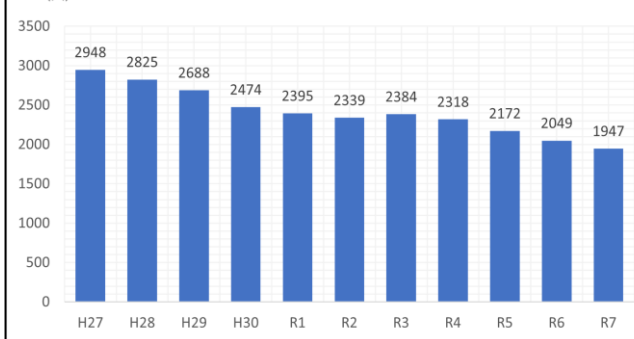
公立中学校の運動部活動設置数は、平成27年度からの10年間で29部減少した。また、桐生市中学校体育連盟における令和7年度の合同チーム数は、2校での合同チームが5チーム、3校合同での合同チームが3チームあり、合同チーム数は年々増加している。

本市では、令和5年度に「桐生市立中学校部活動運営の在り方検討委員会」を設置し、この検討委員会での協議を踏まえ、地域クラブ活動へ円滑に移行できるよう「桐生市における学校部活動の地域連携及び地域クラブ活動への移行に向けた推進計画」を令和6年3月に策定した。

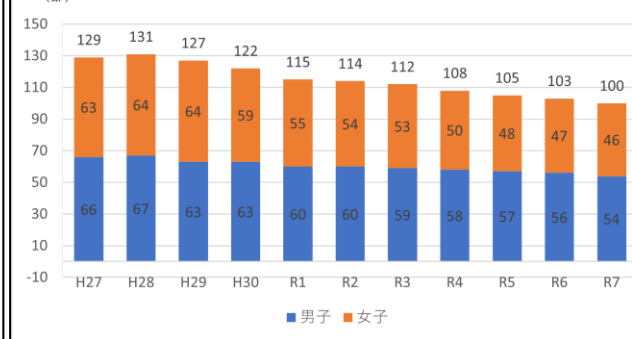
〈課題〉

- 費用について：地域スポーツクラブに所属して活動するための会費の金額について保護者の意識に温度差が生ずる可能性があり、理解と協力を求めていくことが必要である。
- 指導者の確保について：指導者の推薦にあたり協力を仰いでいる桐生市体育協会所属の競技団体の会員数の減少や、高齢化に伴い、指導者が不足している現状がある。

(人) 桐生市における中学校生徒数の推移



(部) 桐生市運動部活動設置数の推移



2.実証内容と成果

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図

【桐生市教育委員会】

実証事業に係る指導者の委嘱・派遣、活動に必要な用具の提供

【NPO法人あいおいスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）】

実証事業運営団体（理事長は桐生市立中学校部活動運営の在り方検討委員会委員）

【桐生市スポーツ・文化振興課スポーツ振興係】

桐生市体育協会（バレーボール協会）との調整・練習会場提供

【桐生市バレーボール協会】／指導者の推薦

【桐生市中体連会長】／地域展開に係る相談役

【桐生市中体連バレーボール部】／地域展開に係る調整・検討

【桐生市立相生中学校長】／実証事業に係る会場提供・相談役

【桐生市中学校長会】／地域展開について生徒・保護者に周知・広報支援

●行政組織内での役割分担

◎桐生市教育委員会（教育環境課）

- ・実証事業に係る指導者の委嘱・派遣、活動に必要な道具の提供
- ・指導者の保険加入 ・講師謝礼の支払い
- ・桐生市立中学校部活動の在り方検討委員会事務局

◎市長部局（スポーツ・文化振興課）

- ・桐生市立中学校部活動の在り方検討委員会事務局

年間の事業スケジュール

4月11日	部活動地域展開運営打合せ （あいおいスポーツクラブ、桐生市教育委員会） →以降、随時打合せ
4月16日	部活動地域展開運営打合せ （あいおいスポーツクラブ、相生中学校管理職） →以降、随時打合せ
4月22日	R7中学校体育連盟登録関係打合せ （あいおいスポーツクラブ理事、責任者）
4月26日	県中体連バレーボール部 県登録準備・説明 （あいおいスポーツクラブ理事、県バレーボール部長） →登録メンバーが揃わず、登録見送り
6月4日	バレーボール練習打合せ （あいおいスポーツクラブ理事、指導者） →以降、随時打合せ
6月8日	あいおいスポーツクラブバレーボール練習開始
11月8日	ヤングジュニアバレーボール交流大会参加 （バレーボール協会主催大会）
12月16日	地域展開に向けたモデル事業（バレーボール）の実施に係る会議 （市教委、市スポーツ・文化振興課、あいおいスポーツクラブ、市協会、市中体連会長、バレーボール責任者）
2月26日	あいおいスポーツクラブ令和8年度説明会 （あいおいスポーツクラブ、市教委、責任者）
3月～	あいおいスポーツクラブ（バレーボール）練習参加体験
3月末	あいおいスポーツクラブ参加申込締切（1次締切）

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）	1クラブ	
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数	0クラブ	
全体の指導者数	6人	全体の運営スタッフ数	24人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数 (平日・休日)	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
あいおい スポーツクラブ	NPO（特定非営利活動法人）総合型地域スポーツクラブ	バレーボール	・平日 週に2回 ・休日 月に1回	19:00 ～21:00	中1 5人 中2 5人 中3 9人	6月～3月 (令和7年度)	6人	0人	継続 4,000円 /年額 新規 5,000円 /年額	協会主催大会：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

R8.2.26 新規会員向け説明会

R8.3 練習体験会

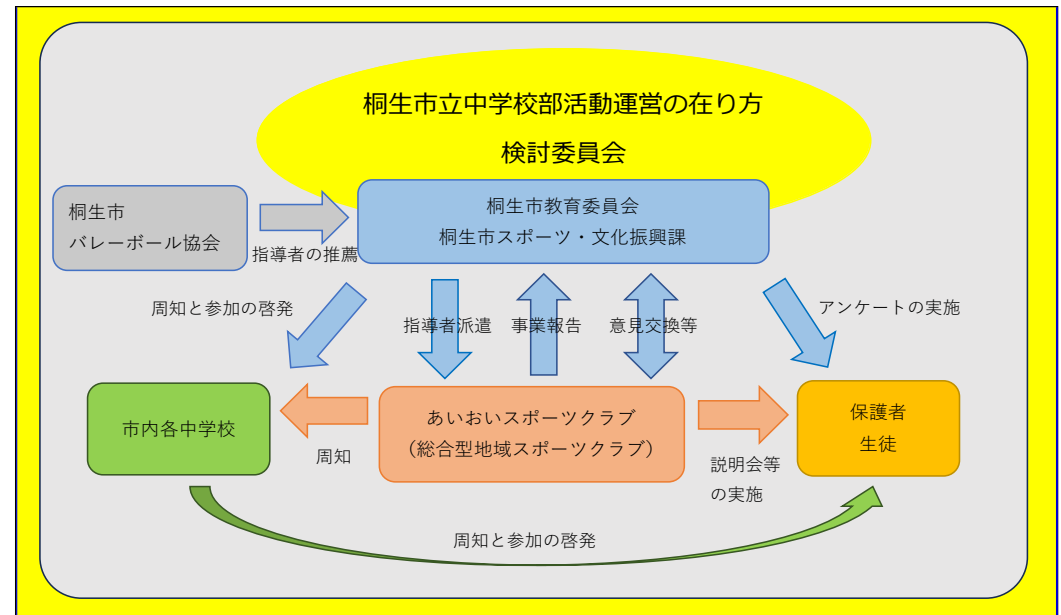
2.実証内容と成果

主な取組例

●あいおいスポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール
運営団体名	NPO法人あいおいスポーツクラブ
期間と日数	月8回程度
指導者の主な属性	桐生市バレーボール協会員
活動場所	桐生市立相生中学校 桐生ガススポーツセンター (桐生市民体育館)
主な移動手段	保護者送迎
1人あたりの参加会費等 (年額)	(継続) 4,000円 (新規) 5,000円
1人あたりの保険料	団体総合保障制度費用保険 生徒1人あたり：1,687円/年 ※団体保険のため、人数割りにした 総合生活保険(傷害補償) 指導者1人あたり：6,860円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

- 桐生市教育委員会
役割：実証事業に係る指導者の委嘱・派遣、活動に必要な用具の提供を行う
- 統括責任者
役割：桐生市教育委員会とあいおいスポーツクラブ指導者との調整を行う
- 主任指導者 1名
役割：指導者のまとめ役であり、会員から会費を徴収するなど、事務的な役割も担う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 指導者は、桐生市バレーボール協会からの推薦を受け、市教育委員会が外部指導者として委嘱し、実施運営団体であるNPO法人あいおいスポーツクラブへ派遣した。
- あいおいスポーツクラブのコンセプトの一つである「スポーツは勝ってこそという考え方だけでなく、会員がスポーツを楽しめる環境作りに取り組むこと」がある。このコンセプトや「運動部活動の在り方に関するガイドライン」を、指導者に周知徹底し、生徒にとって望ましい指導ができるよう共通理解を図れるよう、定期的に話し合う機会を持った。

取組の成果

- 大会参加にあたっては、専門性の高い指導者による的確な指導と配慮が行き届いていたことで、生徒自身が満足 of いく結果を残すことができた。
- 指導者たちは、バレーボール経験年数が長いため、「教え方が分かりやすい」「いろいろな練習方法が学べて楽しい」「地域の人から教えられるので身近な感じがする」などの意見を、生徒や保護者から聞くことができた。
- 指導者研修だけの時間は特別に設けなかったが、2週間に1回程度、あいおいスポーツクラブ理事、責任者、指導者が集まり、打合せを丁寧に行ったことにより、練習の方針・目的等を共通理解し、指導者の意識が統一された。

今後の取組における課題

- 活動回数を増やしていくにあたり、指導者と練習会場を確保すること。
- 指導者の資格取得に伴う費用が自己負担になっていること。また、その時間（期間）を割いてもらわなければならないこと。
- 大会に参加するにあたり、常同審判が必要な場合もある。そのため、指導者に審判資格も取得してもらわなければならないこと。

課題への対応方針

- 指導者を確保するために、引き続き桐生市バレーボール協会と指導者の情報交換を行う。また人材バンク等を活用していく。
- 指導者の資格取得のためにかかる費用について、指導者の負担軽減をどのように図るべきか検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- ・市教委が桐生市バレーボール協会に推薦を依頼、外部指導者として委嘱し、実施運営団体であるNPO法人あいおいスポーツクラブへ派遣した。
- ・あいおいスポーツクラブで以前から活動していた方に依頼し、指導者を引き受けていただいた。
- ・公務員である指導者には、指導者の所属長宛、委嘱への理解をいただくため、依頼文を送付。

平日・休日の一貫指導に関する取組

あいおいスポーツクラブ理事とバレーボール責任者を中心に、指導者を含めて、練習計画・指導方針等を定期的に打合せの機会を設け、確認した。

（練習日・練習会場の確認、練習内容の相談、大会参加へ向けての取組等）

指導者の資格取得促進に向けた取組

あいおいスポーツクラブでの指導にあたる上で、資格取得を推奨し、指導者本人が自主的に資格を取得している。（公認バレーボールコーチ1）
資格取得に伴う費用は、自己負担となっている。
今後、指導者が資格を取得しやすいように、資格取得に伴う費用の支援を検討していく。

指導者総数	6人
資格所持指導者数	3人
本年度資格を取得した指導者	1人

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

バレーボール部がない学校の生徒に活動の場を提供するため、市教委、市スポーツ・文化振興課、あいおいスポーツクラブ、桐生市バレーボール協会、あいおいスポーツクラブバレーボール指導者代表、桐生市中体連会長等が集まり、協議・検討を行い、モデル事業をスタートさせた。

事業を展開していくにあたり、あいおいスポーツクラブ担当理事と頻繁に打合せを行い、体制を整えた。

さらに、あいおいスポーツクラブでの活動を充実させるため、桐生市立中学校部活動の在り方検討委員会や地域展開に向けたモデル事業（バレーボール）の実施に係る会議を開催し、今年度の活動報告を行い、来年度に向けた体制を整えたり、方針の確認をしたりした。

取組の成果

- ・ あいおいスポーツクラブ担当理事と頻繁に打合せを行い、現状や今後の課題が双方で把握できた。
- ・ 来年度の方向性を決定する桐生市立中学校部活動の在り方検討委員会では、様々な立場の方から意見をいただき、バレーボールの事業継続に加え、新たにバスケットボールの活動も展開していく準備ができた。
- ・ 市スポーツ文化・振興課と連携し、練習会場として桐生市民体育館を確保し、使用料も減免することで、より良い環境で練習を行うことができた。

今後の取組における課題

- ・ 市教育委員会とあいおいスポーツクラブの間では綿密に打合せ等を行うことができたが、市長部局のスポーツ文化・振興課、桐生市バレーボール協会との連携はあまり図ることができなかった。
- ・ 中体連大会への参加を見据えて体制の整備・県中体連への登録準備などを行ったが、まだ、部活動と並行して活動している会員が多く、県中体連への登録は、参加希望人数が試合規定人数に達しなかったため、中体連への登録、大会参加は叶わなかった。

課題への対応方針

- ・ あいおいスポーツクラブと打合せをした内容等を、スポーツ文化・振興課や桐生市バレーボール協会とも情報共有し、連携を深めていく。
- ・ 今後も県中体連大会への参加希望者が集まった場合、登録がスムーズに進むように体制は整えておく。
- ・ 来年度から部活動の地域展開コーディネーターを任用し、関係団体とのパイプ役を担ってもらう。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

- ・ 桐生市体育協会メンバーの桐生市バレーボール協会に推薦いただいた指導者を、市教委が外部指導者として委嘱し、実施運営団体であるNPO法人あいおいスポーツクラブへ派遣した。
- ・ 市教委、市スポーツ・文化振興課、あいおいスポーツクラブ、桐生市体育協会、桐生市バレーボール協会、あいおいスポーツクラブバレーボール指導者代表、桐生市中体連会長等が一堂に集まり、本年度の実証事業の成果を確認し、来年度へ向けて協議、検討を行い、方針について共通理解を図った。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

クラブの方針として、現在、受益者負担を原則としつつも、可能な限り安い会費で運営している。しかしながら、部活動の地域移行を進めるにあたり、子どもたちにとって望ましいスポーツ環境の構築のためには、現状のままでは、運営が立ち行かなくなる可能性があるため、適切な会費設定を探っていく。

取組の成果

- 指導者の謝礼や会場の使用料、練習用具の調達を桐生市が負担したため、低廉な会費設定のまま据え置いて活動してきた。

今後の取組における課題

- 生徒の移動時にかかる怪我だけでなく、保護者が送迎した際の事故に対してもカバーできる保険に加入するにあたり、保険料が高くなってしまったこと。
- 大会に参加する際にユニフォームが必要となった場合の費用負担。

課題への対応方針

地域展開に係るスポーツクラブ会員の会費を値上げすることとしたが、保険料や大会参加費等を捻出できる最低限の値上げに留めた。
今後、大会への参加希望が増え、中体連大会にも参加できるようになった際は、受益者負担を原則としつつも、負担軽減をどのように図っていくか検討していく。

●収入

項目	費用	割合
県委託金	429,988	83%
市費	90,000	17%
合計	519,988	—

収支バランス

- 子どもの保険料は会費から賄われた。
- 大会参加料等も会費から賄われた。
- 大会はビブス着用で参加可能であったため、ユニフォーム等は購入せずに済んだ。今後は、ユニフォームを個人で購入するか、クラブで購入し貸与する方法をとるかが検討課題である。

●支出

項目	費用	割合
地域クラブ活動費	519,988	100%
諸謝金（指導者）	264,000	51%
会場使用料	0	—
消耗品費	221,688	42%
印刷製本費	0	—
携帯電話レンタル料	0	—
雑役務	0	—
生徒保険料	—	—
指導者保険料	34,300	7%
事務局運営費	0	0%
謝金	0	—
会場使用料	0	—
スポーツ教室開催費	0	—
保険料	0	—
人件費	0	—
交通費	0	—
印刷製本費	0	—
消耗品費	0	—
備品購入	0	—
通信運搬費	0	—
修繕料	0	—
振込手数料	0	—
一般管理費	0	—
消費税相当額	0	—
合計	519,988	—

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



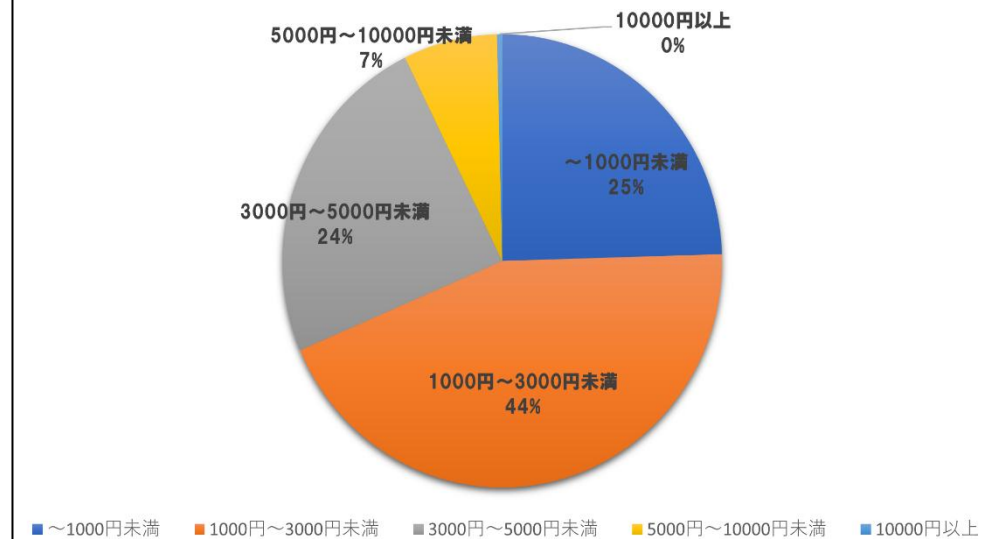
取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

持続可能な運営に必要な受益者負担額の試算

- 桐生市立各小・中・義務教育学校の保護者へのアンケート（令和6年度）で、「地域スポーツクラブ活動」の費用負担（指導者謝金や会場使用料、生徒・指導者傷害保険等）について、月あたりいくらまでなら、家庭で負担してもよいと感じていますか」という質問に対して、1,000円～3,000円程度という答えが最も多い結果となった。
- あいおいスポーツクラブでは、これまで年会費を4,000円（保険料含む）としていたのを、本年度の活動を通して、来年度からは年間10,000円（保険料含む）と設定した。これは、保険料を抜いて考えると、月額約666円となる。これは、「保護者の負担してもよい」と感じる金額よりも低廉な金額を設定できていることとなり、保護者への負担も軽減できると考えられる。
- あいおいスポーツクラブの指導者への謝礼や、練習会場費用、練習道具の購入費などを市で負担をすることで、保護者の負担する費用を軽減できるようにした。

休日に地域クラブで活動させる場合、月あたりどの程度の費用負担（上限）が望ましいか



桐生市立各小・中・義務教育学校の保護者アンケート結果より
（令和6年度）

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

「あいおいスポーツクラブのコンセプトや学校部活動のガイドラインを、指導者に周知徹底した上で、子どもたちにとって望ましい指導をできるよう共通理解を図りながら、本事業を進めていく」「中学校部活動の地域移行に伴う活動を踏まえた取り組みを、桐生市教育委員会と市スポーツ・文化振興課、あいおいスポーツクラブが連携して実施していくことで、市内及び近隣市町の子どもたちの受け入れ体制を構築していく」という目標を立て、本年度の方針の重点として取り組んできた。

特に力を入れた取組として、本年度は、あいおいスポーツクラブとの連携を進めていくことに重きをおいて実施してきた。そのために、あいおいスポーツクラブの担当理事と頻繁に打合せを行い、ひとつひとつ確認をしながら事業を進めた。実証事業1年目で、地域展開の受け皿のひとつとなる地域スポーツクラブの体制を構築するという点では、目標を達成することができたのではないかと考える。参加生徒や保護者からも好評であった。

指導者の確保という点では、市バレーボール協会にも協力を仰いだ。が、会員の高齢化に伴う減少などの理由で、引き受け手が少なく、指導者の不足を感じた。今後の最も大きな課題となっている。

●成果の評価

本年度は、実証事業1年目ということで、実施団体であるNPO法人あいおいスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）との連携に重きをおいて事業を進めてきた。あいおいスポーツクラブのコンセプトに「会員がスポーツを楽しめる環境づくりに取り組むこと」があり、今後の部活動地域展開において、受け皿の一つとなるように、地域の子どもたちが楽しくスポーツに携われるための体制構築を進めてきた。

地域の指導者が、専門的に指導をし、大会にも参加でき、生徒自身が満足のいく結果を残すことができたり、「教え方が分かりやすい」「いろいろな練習方法が学べて楽しい」「地域の人が教えてくれるので身近な感じがする」などの意見を、生徒だけでなく、保護者からも聞いたりすることができた。今後も地域の指導者が地域クラブを指導することの利点を生かし、更に充実した活動となるようにしていきたい。

●今後に向けて

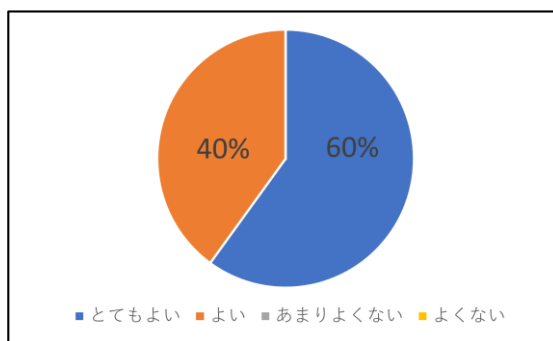
- ・ 指導者の確保や、指導者が資格取得にかかる費用の負担軽減についてもこれからの課題として取り組んでいく。
- ・ あいおいスポーツクラブでの競技は、本年度はバレーボールのみであったが、来年度からはバスケットボールの活動も展開する。バレーボールでの取組の成果や課題を踏まえ、バスケットボールでも中体連への大会参加を見据えて活動を実施していきたい。
- ・ 取り組む競技や練習回数を増やしていくにあたり、指導者や練習会場を確保するため、積極的に市スポーツ・文化振興課や各協会とも連携を行っていく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

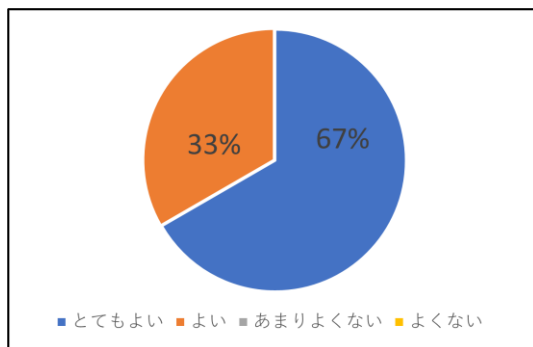
Q.参加した「地域スポーツクラブ活動」において、地域の指導者が指導することについてあてはまる気持ちと理由を教えてください。（参加生徒アンケート）



【理由】

- ・色々な指導者との交流が増えていい。
- ・たくさんの指導者が教えてくれることで、たくさんのコツを知ることができる。
- ・教え方がとても分かりやすい。
- ・部活動で学べること以外も教えてもらえる。
- ・色々な練習方法を学べるから上達できる。

Q.「地域スポーツクラブ活動」で、地域の指導者が指導することについてあてはまる気持ちと理由を教えてください。（保護者アンケート）



【理由】

- ・部活では、専門でない先生が指導していることもあるので、必要なことをしっかり教えてもらえるのでよい。
- ・いろいろな練習方法が学べてよい。
- ・地域の人が教えてくれるので、身近な感じがする。
- ・経験者の方が指導してくれるので上達できる。
- ・経験豊富な指導者から直接指導を受ける機会が増え、技術や知識の向上に繋がる。

●参加者/関係者の声

参加生徒①

違う学校の子とプレーができたり、交流ができたりするので、よいと思います。
コミュニケーションや他の学校のことを知ることができて楽しいです。

参加生徒②

学校の部活にバレーがなかったから、入れてよかった。
心配だった点は、他校の生徒との関わり。

保護者

- ・学校の先生の負担が少なくなるのはよいと思う。
- ・毎日ではないので、運動量が少なくなること、送迎の負担が多くなるのではないかと心配・不安。

指導者

- ・初心者と競技経験者、部活動以上に力を入れてやりたい子の差があり、一緒に練習をするのが難しい。
- ・練習での怪我や移動中の交通事故等の対応について心配がある。
- ・子どもの成長が見られるので、やりがいを感じている。

2.実証内容と成果④

参考資料



【あいおいスポーツクラブ（相生中）での練習風景】



【あいおいスポーツクラブ（市民体育館）での練習風景】



【協会主催大会へ参加】



【協会主催バレーボール大会での試合の様子】

2.実証内容と成果

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和5年

桐生市立中学校
部活動運営の
在り方検討委員会
設置

令和6年

あいおいスポーツクラブ
での活動（バレーボール）
を検討

令和7年

あいおいスポーツク
ラブでの活動開始
（バレーボール）

令和8年

新規事業
（バスケットボール）
のための検討

活動の拡大
（継続：バレーボール）
（新規：バスケットボール）

●ステークホルダー

桐生市教育委員会

●経過

在り方検討委員会を開催し、地域展開に向けて推進計画等を策定した。あいおいスポーツクラブとの話し合いを重ね、令和7年度からの事業実施に向けて令和6年度の夏から予算計上等、体制を整備した。

●実施にあたって生じた課題

指導者を派遣するにあたり、中学校へ派遣している外部指導者の要綱を改正して対応しようとしていたが、対応しきれないことが判明し、新規制定に切り替えたこと。

●実施内容、工夫した点 等

指導者の委嘱・派遣、活動に必要な用具の提供。あいおいスポーツクラブ担当理事と頻繁に打合せを行い、現状や今後の課題等を双方で把握できた。

●ステークホルダー

NPO法人あいおいスポーツクラブ

●経過

令和6年度の夏から何度も打合せを重ねた。バレーボール部の設置がない中学校の新入学説明会において、活動について説明を行い、会員を募った。

●実施にあたって生じた課題

指導者が資格を取得するために要する費用は全額自己負担であり、取得するまでに時間（期間）も費やしたこと。
大会参加の引率は、指導者の拘束時間が長くなってしまうこと。
移動中の怪我等にも対応できる保険に加入したため、今までの年会費では足りなくなってしまったこと。

●実施内容、工夫した点 等

バレーボールの活動を展開する上で、参加会員の希望を聞きながら、協会主催の大会に参加をした。
あいおいスポーツクラブ担当理事と指導責任者を中心に、指導者たちが丁寧な打合せを定期的に行い、指導方針や意識の統一を図った。

●ステークホルダー

桐生市バレーボール協会

●経過

あいおいスポーツクラブで活動を展開するために、市教委、あいおいスポーツクラブ、桐生市バレーボール協会、関係中学校校長、中体連会長、市スポーツ・文化振興課とで話し合いを行った。指導者の推薦を担うこととなった。

●実施にあたって生じた課題

協会員の高齢化に伴う減少により、指導者として協力できる会員がとても少なかったこと。

●実施内容、工夫した点 等

在り方検討委員会や、あいおいスポーツクラブでバレーボールを実施するための話し合いに参加し、今後の活動について考えた。
バレーボール振興に協力してくれるよう、会員に呼びかけた。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

